

令和6（2024）年度 第7回  
大韓民国ソウル特別市江東区への青少年交流団  
派遣事業報告書  
（抜粋版）

～目次～

江東区の概要・交流の経緯	2
事業日程	3
5日間の旅の記録	4
団員感想文・研究テーマ	9
団員・保護者アンケート	47

※ホームページでの公開にあたり、団員の個人情報に配慮し、氏名を伏せる等の加工を行っています。

## ソウル特別市江東区の概要

北漢江と南漢江は太白山脈に源を發し、ソウルへ向かって流れる。江東区はこの二つの河川が合流する場所に位置し、東部ソウルの中心都市となっている。

6千年の昔に遡る先史時代の遺跡が岩寺洞（アムサドン）に残されているが、百濟時代の初期には、ここ江東区に都が置かれ、以後、高麗時代には「広州牧」、朝鮮時代には「光州府」と名を変え、1906年には「京畿道九川面」となり近代都市の基盤が整えられた。繊維・織物・化学薬品および煉瓦などの製造業、園芸農業が盛んであり、近年は生ごみの堆肥化、公園の整備などに取り組み、21世紀の環境都市を目指している。

ソウル特別市



人口	462,646人(2024年9月現在)
面積	24.58km <sup>2</sup>

## 武蔵野市と江東区の交流の経緯

西暦	和暦	月	内容
1996年	平成8年	9月	市長がソウル訪問の際、江東区庁長と懇談。
1997年	平成9年	7月	市長、市議会議員団が江東区を訪問。職員派遣研修協定を締結。
1999年	平成11年	4月	職員相互派遣研修実施(6ヶ月)。
2000年	平成12年	4月	江東区庁長来訪。本会議場で講演。市民交流推進に関する協定を締結。
2003年	平成15年	12月	江東区女性団体系来訪。本市女性団体とキムチ作りを通して市民交流。
2004年	平成16年	10月	武蔵野市市民団が江東区訪問。ホームステイ、食文化を通して交流。
2005年	平成17年	9月	江東区から青少年交流団(中学生20名)が来訪。
2006年	平成18年	7月	青少年交流団(高校生9名)が江東区を訪問。
2007年	平成19年	8月	江東区から青少年交流団(中学生12名)が来訪。
2010年	平成22年	7月	青少年交流団(中学生8名、高校生4名)が江東区を訪問。
2011年	平成23年	9月	江東区から青少年交流団(中学生4名、高校生8名)が来訪。
2012年	平成24年	7月	青少年交流団(中学生7名、高校生5名)が江東区を訪問。
2013年	平成25年	8月	江東区から青少年交流団(中学生5名、高校生7名)が来訪。
2014年	平成26年	7月	青少年交流団(中学生7名、高校生5名)が江東区を訪問。
2014年	平成26年	9月	江東区副区庁長、職員6名が防災安全研修のため来訪。
2016年	平成28年	8月	江東区から青少年交流団(中学生3名、高校生8名、大学生1名)が来訪。
			武蔵野市長が江東区を訪問。
2017年	平成29年	5月	江東区庁長、江東区サッカー少年団来訪。
		8月	交流20周年記念事業「韓国江東区・忠州市への旅」で江東区を訪問。
			青少年交流団(中学生8名、高校生4名)が江東区を訪問。
2018年	平成30年	5月	江東区野球交流団来訪。
		8月	江東区から青少年交流団(中学生7名、高校生5名)が来訪。
2019年	令和元年	4月	江東区職員18名が日本視察時に武蔵野市を訪問。
		8月	青少年交流団(中学生4名、高校生8名)が江東区を訪問。
		11月	江東区一行3名、少年野球団23名が武蔵野市を訪問。
2020年	令和2年		新型コロナウイルス感染症への対応のため青少年交流団受入事業を中止。
2021年	令和3年		新型コロナウイルス感染症への対応のため青少年交流団受入事業を中止。
2022年	令和4年	1月	武蔵野市14名と江東区11名の青少年によるオンライン交流を実施。
			新型コロナウイルス感染症への対応のため青少年交流団受入事業を中止。
		8月	武蔵野市7名と江東区10名の青少年によるオンライン交流を実施。
		12月	江東区議会議員団8名、随員6名が視察来訪。
2023年	令和5年	8月	江東区から青少年交流団(中学生4名、高校生8名)が来訪。
2024年	令和6年	8月	青少年交流団(中学生4名、高校生8名)が江東区を訪問。

## 事業日程

日時		内容	宿泊
6/2	13:00～16:30	結団式、第1回事前研修	
6/15	15:00～18:00	第2回事前研修	
7/7	15:00～18:00	第3回事前研修	
7/22	9:00～12:00	第4回事前研修	
8/1 (木)	8:00	市役所集合	
	8:15	出発式	
	8:25	市役所出発、羽田空港へ	
	9:50	羽田空港到着、搭乗手続き	
	12:30	羽田空港発 (KE2102 便)	
	14:50	金浦空港到着、入国手続き	
	15:40	江東区役所へ移動	
	17:00	江東区役所表敬訪問、両区市青少年対面、歓迎式	
	17:55	各ホームステイ先へ	ホームステイ
8/2 (金)	9:00	区役所集合、移動	
	9:50	ソウル岩寺洞先史遺跡博物館見学	
	11:30	昼食 (ビュッフェ)	
	13:05	篆刻体験	
	14:30	仁寺洞 自由散策	
	16:05	曹溪寺 見学	
	17:45	区役所で解散、各ホームステイ先へ	ホームステイ
8/3 (土)	9:00	区役所集合、移動	
	9:30	ロッテワールド到着、制服レンタル	
	10:30	ロッテワールド入場、自由行動	
	17:30	各ホームステイ先へ	ホームステイ
8/4 (日)		ホストファミリーと自由行動	
	19:00	さよならパーティー	
	21:00	さよならパーティー閉会	レイクホテル
8/5 (月)	9:00	ホテルロビー集合、移動	
	10:00	ウォーカーヒル 光のシアター観覧	
	11:30	昼食 (ピザ)	
	13:40	金浦空港到着、搭乗手続き	
	16:10	金浦空港発 (KE2103 便)	
	18:30	羽田空港到着、入国手続き	
	19:30	市役所へ移動	
	20:40	市役所到着、帰国式、解散	
9/6	19:00～20:30	派遣事業報告会	

## 5日間の旅の記録

1

日目 8月1日(木)

8:00 武蔵野市役所集合

8:15 出発式

全員が5分前に集合し、早めのスタート。  
バスで羽田空港へ。



9:50 羽田空港到着

出国手続き等。  
空港内で自由時間。



12:30 羽田空港出発

飛行機の中で昼食の機内食。

14:50 金浦空港到着

入国手続き等。  
江東区役所職員のみなさんがお出迎え。  
すぐにバスで江東区役所へ。



17:00 歓迎式・表敬訪問

韓国の青少年は日本語、団員たちは韓国語で自己紹介。  
ホストファミリーと初対面後、各ホームステイ先へ。





日目 8月2日(金)

9:00 江東区役所集合、バス移動

9:50 <sup>アムサドン</sup> ソウル岩寺洞遺跡博物館

博物館の案内や展示品の解説をしてくれる方が出迎えてくれました。博物館には、過去・現在・未来を表す大きな絵や、大学教授が見つけた遺跡、他にも当時の生活を再現した映像を見たり、遺跡発掘に使う道具などの展示品がありました。また、当時の人がやっていた火おこしや木の実をすりつぶしたりする映像と連動した体験ができました。とても貴重な体験ができました。



11:30 昼食 バイキング形式のレストラン

食べ物の種類が豊富で、色鮮やかでいい匂いがたよう食べ物が沢山ありどれもとてもおいしかったです。

13:05 ハンコ作り (篆刻) <sup>てんこく</sup> 体験

自分の名前を韓国語で書いて、それをハンコの上に付けて、ペンのようなものでハンコを彫り、世界に一つだけのハンコを作ることが出来ました。



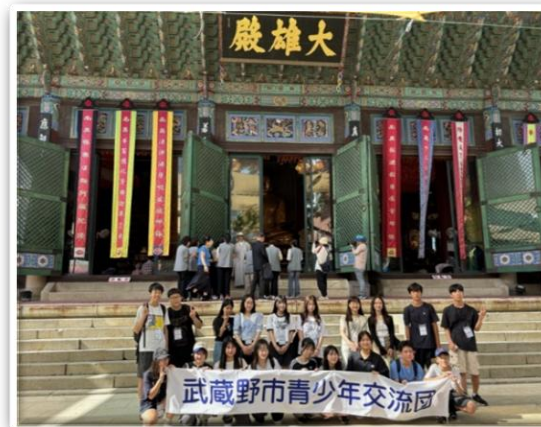
14:30 <sup>インサドン</sup> 仁寺洞 自由散策

韓服を着る予定でしたが、記録的猛暑で着ることが出来ませんでした。その代わり予定より長く街の色々な場所を散策することが出来ました。

16:05 <sup>チョグサ</sup> 曹溪寺 見学

お寺の前で記念撮影をして、お寺の中やお土産屋を見たり、自由行動をしました。

17:45 江東区役所で解散、ホームステイ



3 日目 8月3日(土)

### 9:00 江東区役所集合

ホームステイ先からペアと一緒に集合。  
バスの中で楽しく過ごしていたら、あっという間に到着していました。

### 9:30 ロッテワールド到着

韓国の学生服を着用する制服体験。みんなで制服姿の写真を撮りました。



### 10:30 ロッテワールド入場

制服を着て園内をまわりました。  
園内にはジェットコースターや  
ゴーカーなど楽しい乗り物が  
たくさんあります。

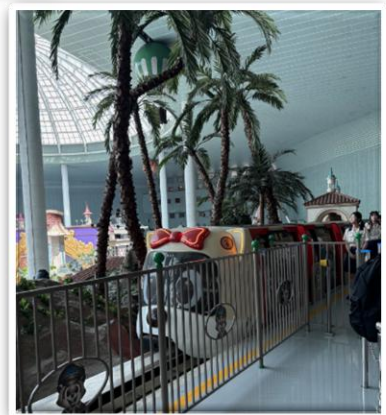


### 13:00 昼食

個々に食べたい物を選んで  
昼食タイム。  
麺類やエビチャーハンを食べました。

### 17:30 解散、ホームステイ

バスで江東区役所に戻りました。ペアと一緒に帰宅。  
ホームステイ最後の夜です。



4

日目 8月4日(日)

### <団員たちは各ホームステイ先で自由行動>

ペアの家族といろいろな所に行きました。

ロッテタワー、博物館、市場、カフェ…

それぞれのホストファミリーと楽しく過ごし、たくさんの思い出を作りました。

### 17:00 ホテルチェックイン

すぐにさよならパーティーの準備をしました。

### 19:00 さよならパーティー

グループの出し物と全体の出し物を披露し盛り上がりました。

法被を着てソーラン節を踊り、

K-POP ダンスメドレー、

「世界に一つだけの花」を歌いました。

たくさん笑って、おしゃべりをして

最後は名残惜しい気持ちになりましたが

心温まる素敵なパーティーでした。



江東区 4日間 ありがとうございます

강 동 구 사 일 동 안 감 사 합 니 다

### 21:00 さよならパーティー閉会、ホテル泊

5

日 8月5日(月)

8:15 朝食

9:00 ホテルチェックアウト

10:00 ウォーカーヒル 光のシアター観覧

世界中の芸術作品が現代のプロジェクターの技術で再現された没入体験型アート展示館。  
ソファなどに座ってゆっくりと見物。



11:30 昼食

きれいな景色が見える PIZZA HILL でのピザ。

13:40 金浦空港到着

出国手続き等。空港内の自由時間には椅子で休憩。

16:10 金浦空港出発

ついに帰国の途に就く。飛行機の中で夕食の機内食。



18:30 羽田空港到着

入国手続き等。

20:40 武蔵野市役所到着、帰国式

団員の家族が市役所前でお出迎え。

成長した団員の顔には

充実感や自信がありました。

## ✦ 人の優しさを感じた5日間 📅 (高2・女子)

8月1日に私は団員の一員として韓国へ飛び立つことができました。私自身が初めての海外ということもあり、うれしい気持ちとこれから始まる5日間の韓国での生活に不安に思う気持ちがありました。

まず初めに、江東区役所で歓迎会がありました。その時にはじめてペアであるヨンジと会いましたがその時には私もさゆちゃんもヨンジも全員緊張していたので会話が少なく不安に思っていました。それでもだんだんと日本語と韓国語を交えながら話をしていくうちに仲良くなっていけたと思います。

ホームステイ先につくと、私たちが日本から持ってきたお土産にすごく興味を示してくれて喜んでくれたので安心しました。1日目は夜ご飯にキンパとチャプチェ、ミヨッククともち米をお母さんが作ってくれました。キンパは作る体験をすることができたので楽しかったですし、新鮮な体験でした。8月1日は私の誕生日だったので韓国で伝統的に食べるミヨッククともち米を食べることができました。そして、ケーキまでサプライズで用意してくださって、誕生日の歌まで歌ってもらえてすごく幸せな誕生日でした！！

2日目はハンコをつくったり、遺跡の見学をしたりと韓国の文化に触れることができた一日でした。自由時間には、韓国式のプリクラもとることができてよかったです。そのあとは、ほかのペアの子とお家に帰って一緒にチキンを食べました。韓国のチキンは日本とは違って、衣がしっかりしていておいしかったです。

3日目は夢だったロッテワールドに行くことができました。ロッテワールドで必ずと言っていいほど着る韓国の制服まできて遊ぶことができて本当に幸せでした♡アトラクションに並ぶ時間もお話をずっとしてさまざまな話題で話すことができたのですごく楽しかったですし、室内にある遊園地は今までなかなかいかなかったのが韓国もすごく暑かったのですが、快適に遊ぶことができました。お家に帰ってきて、ラーメンを食べました。みんなで食べたのですが辛くはなくておいしかったです。お風呂に入った後もお母さん、お父さんたちと明日の自由行動についての計画を立てたり、韓国人が発音するのが難しい日本語についてはなしたり、たくさんのお話を深夜の2時ぐらいいままでして本当にたくさん笑ったし楽しい時間でした。

4日目は新村に行ってショッピングやロッテタワーで韓国のスーパーに行きました。ヨンジのお友達と一緒にいったのですがその子とも交流できて楽しかったです。さよならパーティーではダンスを踊ったのですが、前で動画をとってくれている子もいて思い出になったと思います。4日間お世話になった人たちと離れるのがすごく寂しくて、泣きそうになりながらでしたが最後まで楽しく過ごすことができました。

私にとってこの5日間は本当に良い経験になりました。母国語ではない言葉を使い続けることも目にするもの全部が初めての事ばかりで、新鮮でした。ヨンジやホストファミリーをはじめとした今回の派遣事業に関わってくれたすべての人に感謝したいです。ありがとうございました。



## 日本と韓国の誕生日にすることの違い

### <このテーマを選んだ理由>

派遣日程の初日である8月1日は私の誕生日であり、韓国で誕生日にはどのようなことをするのか気になったから。ほかの団員では経験することのできないことだと思ったので、このテーマをより深く調べたいと思いました。

### <行く前に調べていたこと・考えていたこと>

韓国ではミヨッククというわかめスープを食べるのが一般的で、儒教の文化が影響しているのではないかと。韓国では数え年という生まれたときには1歳という制度だったが、法律が改正され日本と同じような満年齢の制度に変更されたということも事前研修で聞きました。誕生日に歌う歌も韓国語版があるということも知っていました。

### <現地に行って分かったこと>

実際に韓国での誕生日を経験してみて、当日の夜ご飯にはミヨックク、もち米、チャプチェ、を食べました。

ミヨッククは日本でいうわかめスープのことですが、わかめにはカルシウムや鉄分などの栄養が多く含まれ、韓国では産後の女性の体力回復のためにわかめスープをよく食べる習慣があるのだそうです。韓国では、誕生日はお母さんが自分を産んでくれた感謝を大切にする文化があるため、自分を産んでくれた母親に感謝する意味と、母親が子供を産んだ時の喜びを思い出すという意味があるようです。

もち米はお母さんが話していたのですが、お米1粒1粒が宝石のようにキラキラ輝いているので誕生日に食べるのだそうです。これは、インターネットで調べても出てこない情報だったので実際に経験してみないとわからないことだったのかなと思いました。

チャプチェは手間がかかる料理なのでお祝い事の際によく食べられるそうですが、誕生日の際には春雨が長いので長生きするようにという意味で食べられるそうです。

そして、最後にはケーキまで食べることができました！！ケーキは日本と同じように誕生日の時には普通に食べられるそうです。その時に、電気を消して韓国でよく歌われる誕生日の歌までも歌ってもらうことができました。また、ろうそくの火を消す前にお問い合わせをすることがよかったです。

### <結論>

韓国と日本の誕生日は似ているところもありましたが、違う部分も多かったように感じました。日本は、その日に生まれた自分をお祝いすることが重要視されているのに対して、韓国は自分よりも自分を産んでくれたお母さんに対して感謝を伝える日だというのが日本に住んでいる自分にとっては新鮮でした。また、料理の面でも日本は本人の好きなものなどを用意するのですが、韓国では意味のこもった料理が多かったため違いを感じました。きっと、韓国で誕生日を過ごしたのは私だけだと思うので他の人には体験することのできない貴重な経験だったと思います。とても幸せな誕生日でした！！

## ✈ 初めて尽くしの韓国 🛡️ (高1・女子)

私はこの夏、大韓民国ソウル特別市江東区へ青少年交流団として訪問しました。団員に選んでいただけたという書類が届いたとき、大きな驚きと共に嬉しさがこみあげてきたのを今でも鮮明に覚えています。

4回の研修の中で韓国語や韓国の文化、そして日本との違いを学ぶ中で韓国のことを知ることがとても楽しく、訪問に行くことへの実感がわいてきました。そして、研修の中で出し物の練習を試行錯誤しながらしていく中で団員同士の仲も深めることが出来たと思います。また、訪問に行くまでの1か月で周りの方にサポートして頂きながら韓国語の勉強も積極的にしました。韓国語の勉強は難しいながらも知らないことを知れる楽しさを感じながら取り組むことが出来たと思います。

私はこの事業に参加するまで海外へ行ったことがなく、当日の朝から金浦空港に降り立つまで不安と緊張で落ち着きませんでした。無事に金浦空港に到着し、江東区役所に着いたとき、区役所のスクリーンに映し出された「日本東京都武蔵野市青少年交流団の江東区訪問を歓迎いたします。」という言葉に感動と安心を感じました。歓迎式でホストファミリーのシウンとお母様に会いました。家に帰るまでの道中でたくさん話しかけてくださって緊張がほぐれていくと共に不安も減っていききました。家で夕食をいただいたあと、シウンと散歩に出かけました。日本とは少し違った風を感じながら夜の街を歩くのは心が安らぎました。

2日目は交流団と江東区のホストブラザー、ホストシスターと一緒にソウル岩寺洞遺跡博物館と篆刻体験をしました。博物館では韓国の歴史を自然の観点から学ぶことができました。日本は島国ですが、韓国は陸続きの国なので、日本との違いも感じました。しかし、日本の歴史的な文化には朝鮮半島から伝わったものもあるという説もあります。なので、日本と似たようなものもありました。篆刻体験では半透明の石に彫刻刀で自分の名前のハングルを彫りました。名前を細く深く彫ることが難しかったです。そのあと、仁寺洞街というところで自由時間でした。クルタレというお菓子を作る場所を見せていただいたり、スマホケースを作ったりとシウンたちと仲が深まったように思います。その日の夜はホストファミリーにコリアンバーベキューのお店に連れて行っていただきました。日本ではお肉と一緒に食べるのはお米の印象が強かったのですが、韓国ではお米に加え、サンチュやミョンナムルと一緒にお肉を食べます。他にもサムギョプサルやケランチムをいただきました。どれもとてもおいしく、また食べたいと思いました。夕ご飯を頂いた後、シウンと交流団の一人とそのホストシスターとカラオケに行きました。22時頃までカラオケで遊びましたが、日本とは違って夜にカラオケにいても怒られないので、日本ではできないことができて嬉しかったですし、楽しかったです。

3日目はシウンともう一組のペアとロッテワールドを回りました。8月で天気にも恵まれたので外がとても暑かったです。土曜日だったこともあり、人が多かったです。幸いあまり並ばずにアトラクションに乗ることができました。日本のテーマパークとの違いを感じながら1日中歩き回りました。

4日目は自由行動でした。シウンとお母様と一緒にカフェに行ったり、ショッピングモールでショッピングをしました。

さよならパーティーでは江東区のホストファミリーたちと食事をいただいたあと交流団が準備したソーラン節、ダンス、全員での合唱を披露しました。私はダンスをやったのですが、シウンに

「ダンスよかったよ」と言ってもらえて準備したかいがありました。他のホストファミリーの皆様も楽しんでくださったようで良かったです。4日間一緒に過ごしたホストファミリーと離れることはとても寂しかったです。

今回の訪問は私にとって初めて尽くしだと思います。まず初めての海外、初めて韓国の文化に深く触れ、初めてのホームステイなど…挙げ続けたらきりがありません。私は今回の事業に参加するにあたって日本と韓国の違いと共通点を知りたいと思っていました。言語に始まり、食文化、マナー、さらに人々についてもたくさんの違いと共通点を見つけることができました。しかし、違いがあるからこそ、その国のことをもっと知りたくなる、その中で共通点を見つけて親近感がわいて更にその国のことが知りたくなる。そうやってお互いのことを知って行くことが違いを認め合うことへの第一歩であると考えました。

加えて私は言語を学ぶ姿勢についても2つ、気が付くことができました。1つ目は韓国語についてです。今まで韓国の曲を聞くことはありましたが、そこまで韓国語について触れる機会がありませんでした。しかし、この事業への参加が決まり、韓国語を少しながらも勉強していく中で知らない言葉、ついては知らないことを知っていくことへの楽しさを知ることができました。

2つ目は英語についてです。英語の勉強は学校の授業でしていましたが、なかなか腰を入れて頑張ることができませんでした。しかし、今回シウンや他のホストファミリーと会話をする中で、今までの意識のままでは英語は実戦形式では使えない、通じないと痛感しました。更に、単語がわからなくてもなにか言葉を発する度胸が必要だと思いました。

たくさんの気付きを得られた今回の派遣事業への参加、確実に私の成長につながったと思います。勇気を出して参加して本当に良かったと思います。

最後に、この事業に携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



<このテーマを選んだ理由>

私はこの派遣が決まってから、周りの方にサポートしていただきながら韓国語の勉強をしました。そのなかで韓国語への興味がとてもわきました。例えば母音と子音で文字の読み方が決まる事、パッチムの存在、文法が日本とほとんど同じだということなどです。このようなことから、研究テーマに「韓国語」を選びました。

<行く前に調べていたこと・考えていたこと>

韓国語について主に2つのことについて調べ、考えていました。

・文法について

韓国語の語順は、日本とほとんど同じです。英語の語順は、「S-V-O」（主語・動詞・目的語）が基本形であるのに対し、日本語や韓国語は「S-O-V」（主語・目的語・動詞）という順番です。また、ヨーロッパの言語は、名詞が格変化と呼ばれる語形変化をします。例えば、英語では「I（主格）,my（所有格）,me（目的格）」のように変化します。しかし、日本語や韓国語は名詞の形は変えずに助詞をつければよいのです。なぜこのように共通した文章の作りがあるのか。私は弥生時代に大陸から文化が伝来した時に、漢字や青銅器、稲作が伝わると共に文章の作りも一緒に伝来したのではないかと考えます。また、韓国には日本と同じように敬語があります。日本と違うのは身内でも敬語、尊敬語を使うところです。これには儒教の考え方が影響していると考えられます。

・文字（ハングル）について

ハングルは朝鮮王朝の第4世代の王である世宗（1397年～1450年）によって作られました。ハングルが完成するまでは、漢字を用いて韓国語を表記していましたが、漢字では韓国語の構造や特徴を十分に表せないという使用の不便さから、新しい文字であるハングルが作られました。

ハングルは、子音字母が19個、母音字母が21個の計40個の組み合わせで文字の読み方が決まります。私は、これはローマ字が母音と子音を組み合わせて音を作ることと似ていると思います。

<現地に行って分かったこと>

現地に行って、韓国語について思ったことが2つあります。

・文章について

私は、韓国語は英語よりも比較的楽に挑戦できると感じました。なぜならば、文法が同じなので、言葉さえわかっしまえば、日本語と同じように並べて話すことが出来るからです。しかし、単語には日本とは違い、パッチムというものが含まれることがあります。私が特に難しさを感じたのは「ん」という音です。日本語では「ん」という文字で表す「ん」の音を、特に意識することはありませんでした。しかし、韓国語およびハングルではこの「ん」という音を主に3種類のパッチムを使って表します。したがって、話すときにその使い分けを意識しないと別の単語に聞こえてしまう恐れがあります。他にもパッチムには次に来る文字によっては読み方が少し変わるなど、日本語にはないルールがあったので苦戦しました。

・街中に見る文字表記について

もう1つ、私は看板について気になりました。なぜならば、街中の看板はその国の第一言語と第二言語で書かれるものであると考えたからです。実際には、街中にあるお店の看板はハングルのみで書かれたものが多かったです。次に多かったのはアルファベットで書かれたもの、その次が漢字で書かれたものでした。しかし、道路の場所の表記などは、ハングルと共にアルファベットも示されていました。韓国の第二言語は日本と同じで英語なのだと気づきました。ホストファミリーのシウンと英語で会話できたのも、第二言語が日本と同じ英語だからだと気がつきました。

#### <結論>

私は今回この研究テーマについて考える中で、韓国語と日本語の違いと共通点、加えて韓国と日本の違いと共通点を考えることができました。文字は日本語と韓国語は見た目が全く違います。また、読み方も日本にない音、韓国にはない音とそれぞれがお互いの言語を学ぶ際に苦戦する箇所があります。しかし、大きな共通点として文法がとても似ていることがありました。英語を学ぶ際は文法を1からきちんと学ばないとちぐはぐな文章ができてしまいます。しかし、韓国語は日本語と文法がとても似ているため、簡単なコミュニケーションをとる分には単語さえ押さえてしまえば英語よりはハードルを低くして話すことが出来るのではないかと思いました。もちろん韓国語の文法をきちんと学ばなければ、より正しい文章にはならないでしょう。また、似ている部分が多いとはいっても違いはあります。多くはない違いを押さえながら学ぶことで、英語よりも親しみやすい言語だと思います。

私は、その国のことを知るためには「言語」が1つのポイントになると思います。韓国語と日本語の文法は似ている、加えて第二言語が英語であるという2点は、お互いの交流を活発にすることに役立つと思います。言語がお互いの国を知るための一つの鍵になるということを、今回の研究テーマを通じて考えました。

## ✈️ より身近な国に 🛡️ (高3・女子)

私は武蔵野市の青少年交流団の一員として韓国を訪れ、多くの貴重な経験をしました。中学生の時、K-POP へ興味を持ったことをきっかけに韓国語や韓国文化の勉強を始め、韓国に対して親近感を抱いていました。そのため、今回のホームステイについては不安を感じることはなく、期待で溢れていました。

今回の事業では、私たちを受け入れてくださるホストファミリーが 11 家庭だったため、私は高2のあすかちゃんと共にヨンジの家でホームステイをすることになりました。私もあすかちゃんも韓国語が話せたため、現地での会話は韓国語で行いました。最初はたどたどしく会話をしていましたが、時間が経つにつれて韓国語に慣れていき、二人きりで話すときも韓国語と日本語を混ぜながら話すようになりました。

ペアだったヨンジは昨年度江東区からの交流団として武蔵野市でのホームステイを経験した子で、日本への関心を多く持っており、互いに韓国、日本での生活について質問したり、写真を見せ合ったりしました。

私が5日間の中で特に印象に残っているのは、3日目と4日目です。

3日目は全員でロッテワールドに行き、そこではペアのヨンジとあすかちゃん、そして前日のビュッフェの際に仲良くなったあおいちゃんとペアのイェジンと5人で行動しました。制服レンタルのお店に行き、憧れていた韓国風の制服を身に纏い1日過ごしました。ロッテワールドには屋外だけではなく、屋内にも様々なアトラクションがあり驚きました。その日はとても暑かったため、ほとんどの時間、屋内施設で遊びましたが、想像していたよりも混雑していて、並ぶ時間も多かったです。そのような時間は、韓国で有名なゲームを教えてもらって一緒にやったり、4日目の自由行動で何をするか話したり、5人で様々な交流が出来ました。

4日目の午後にはさよならパーティーが行われました。そこでは私たちが日本で準備してきたものをお見せしましたが、韓国の子たちが沢山動画を撮ったり、一緒にダンスを踊ってくれたり、とても喜んでくれたようで嬉しく思いました。パーティー終盤になると今まで話したことのなかった子に話しかけ連絡先を交換している子たちが多く、非常に盛り上がりました。

最後の夜はホテルでの宿泊となりましたが、そこでも沢山の思い出が出来ました。パーティーが終わってからは何人かで1つの部屋に集まり、各自ホームステイ先でどのような食事、会話をし、自由行動では何をしたのか話し、一緒に思い出を振り返りました。その後は、同じ部屋の子とコンビニに行ってアイスを購入し、夜の公園を少し散歩しました。そこからどのベッドを使うか争奪戦をしたり、大量の蒸しパンを食べたり、、、とまるで修学旅行かのように年齢が違う子たちと最後の最後まで楽しく過ごしました。

初渡韓でしたが、実際に韓国語を使うことが出来る環境にずっとわくわくしていて、失敗を恐れず挑戦出来たと今回のホームステイを振り返っています。私は今回最年長でしたが、自分よりも若い子たちが親元を離れて異文化の中で5日間生活する姿、韓国語が話せない子たちが翻訳機を使ったり、英語で会話したりと韓国の子ととても仲良くなっていく姿を見て、コミュニケーション能力の高さと積極的に挑戦する姿勢にすごいなと何度も感じました。江東区の同世代の子たちと交流出来たことはもちろん、武蔵野市の子たちと一緒に貴重な経験をすることが出来たことを大変嬉しく思いますし、感謝しています。

この5日間の経験は、私にとって韓国という国をより身近に感じさせるものとなりました。現地の方と韓国語で会話したことやホームステイを通じて韓国の文化や伝統を直接学んだことで、友好の大切さや異文化理解の重要性を実感することが出来ました。帰国してからもペアであるヨンジ、さよならパーティーで仲良くなった数人の子たちと連絡を取り合っていますが、この交流が一時的なものにはならないよう交流を続けられればと思います。

ありがとうございました。

## 日常生活における違い

<このテーマを選んだ理由>

物理的距離が近く、時差もない韓国で、自分と年齢の近い子たちがどのように生活しているのかわりたかったから。

<行く前に調べていたこと・考えていたこと>

- ・食事にはいつもキムチが付け合わせとして出される
- ・キムチには数多くの種類がある
- ・料理を残しても失礼には当たらない  
逆に食べきってしまうと、食事が少なく物足りなかったのではと思われる
- ・湯船に浸かる習慣がない
- ・なんでもシェアする文化
- ・食事の際には年長者が食べ始めるのを待つ

<現地に行って分かったこと>

まず、キムチについてはサムギョプサルを食べに行った時、4種類ほどのキムチが出てきて、様々な種類のキムチが一度に提供されることを知った。しかし、毎食キムチが出てくることはなかった。この5日間の中で、キムチが出てきたのは2度のみだった。

食事に関して一番驚いたことは、料理を残すことに抵抗がないことだった。基本的に日本では、出された料理を残す事は失礼であると感じる人が多い。しかし、韓国では料理を残す人が多くいるように感じた。2日目の昼食で行ったビュッフェでは、自分の取ったものを食べきらず残したまますぐ次の料理を取りに行く人が何人かいた。また、サムギョプサルを食べに行った時にはおかずをほとんど残したり、スタバのドライブスルーで購入した飲み物を半分ぐらい残して捨てていたのが、日本ではあまり見ない光景だと思った。ご飯は残さず食べる、が当たり前の日本とは対極的であり、最初は慣れなかった。

次に、入浴については韓国では浴槽がなくシャワーのみで済ませるということを知っていたが、実際に体験してみると少し不便に感じた。シャワーとトイレが1つの部屋にあったため、誰かがシャワーを浴びるとトイレに行くときに足が濡れてしまうなど初めての経験をした。

エアコンについては、事前に何も知らなかったもので、現地に行って驚いた。日本では各部屋にエアコンがあるのが普通であるが、韓国では家に1つという場合も珍しくなく、実際ホームステイ先でも自分が使わせてもらった部屋にはエアコンがなく、夜間は窓を開けたり扇風機を利用した。日本より韓国の方が少し気温は低かったが、それでも暑かったので、エアコンがなく暑くて何度か夜に起きてしまったという他の団員の話もよく聞いた。

最後に、韓国では日本以上にデリバリーが便利で羨ましく思った。私がピヨットを日本に持ち帰りたいから買いに行きたいとオモニに話すと、クパンという通販で注文してくれたが、深夜12時までに注文すると、翌朝の7時までに自宅に届く通販であると教えてくれた。ここから、日本よりデリバリーが充実していると感じた。

<結論>

韓国は日本と地理的に近いため、文化的な面においても共通点が多いのではないかと感じていたが、日常生活にはいくつかの興味深い違いが見受けられた。

特に印象的だった日常生活の違いは、料理を残しても失礼に当たらないことと、シャワーとトイレが同じ部屋にあることだった。また、事前に調べたことと、実際に体験した結果が異なることもあり、慣れない生活となったが、文化の違いに直接触れる事で視野が広がった。

両国には共通点も多い一方で、こうした違いがそれぞれの文化の独自性を形作っていると考えた。

## ✈️ 素晴らしい5日間 in KOREA!! 🛡️ (中1・男子)

僕は、海外に行って、もっと色々なことを知りたい、また、他の国にも日本のことを知ってもらいたいと思い、今回の武蔵野市青少年交流団の一員として韓国ソウル特別市江東区に行ってきました。

海外に行ったことはありましたが、韓国に行ったのは今回が初めてでした。K-POPなどは全然知らなかったし、韓国について自ら調べたことも少なかったので、今回の派遣事業は楽しみではありませんでしたが、どのような旅になるか少し心配していました。また、知らない人の家にホームステイすることについても、最初はとても緊張していました。

しかし、実際に行ってみると、そんな心配はすぐに吹き飛びました。自分のペアの子のジファンは初めからとても優しく、同じ趣味であるサッカーの話題で盛り上がりたり、また、ホストファミリーのお母さんは、日本好きだったので、日本語が日常会話程度喋っていて、全然韓国語が話せない僕に日本語で優しく話しかけてくれたり、お父さんも翻訳機を使ってユーモアを交えながら一生懸命話しかけてくれましたし、ジファンの双子の兄であるジホンともゲームなどを通じて仲良くなることができました。そんなホストファミリーの優しい気づかいのおかげで、最初感じていた言語の壁もすぐになくなり、いつの間にか緊張もほぐれ、安心して過ごすことができました。

5日間で3日間は、団員のみんなとそのペアの人たちと江東区の色々な場所に行き、日本では経験できないようなことを体験することができました。特にロッテワールドという遊園地に行ったことが思い出に残っています。ペアのジファンや団員達とロッテワールドを回り、絶叫マシンに乗ったり、アトラクションの待ち時間に趣味や好きなゲーム、学校のことなどを色々話しました。また、みんなでロッテワールドから帰る際、違う電車に乗ってしまい少し迷子になりましたが、その逆境をみんなで乗り越えたことで一気に仲が深まった感じがしました。

その日の夜はジファンとジホンに用事があり、家にいなかったのも、お父さんお母さんと噴水ショーや夜景を見に行きました。ソウルの街が一望できるその光景はとてもきれいで感動的でした。会ってまだ3日しかたっていないのに、こんなに僕のことを思って色々企画して連れて行ってくださったと思うととても嬉しい気持ちになりました。

そんなふうに日々を過ごしていたら、あっという間に4日も過ぎて最終日の夜になってしまいました。悲しいながらも、楽しくお別れパーティーを行い、韓国での最後の夜を迎えることが出来ました。韓国にいたあの5日間は本当に早く、あと1か月くらいはホームステイしていたかったです。

今回の派遣事業で他に気付いたこととして、その国の言葉が話せなくても、英語が話せたら大体のことが伝わること、話が通じなくてもジェスチャーなどで何とか伝えようとする気持ちが大切だと分かりました。僕はクラスの中では英語を話せる方だと思っていましたが、まだまだ未熟でした。今後は、毎日ひとつ英単語を覚える気持ちで努力し、世界中の人と英会話ができるように頑張ります。

最後に、今回武蔵野市青少年交流団の一員として韓国に行かせてもらえて本当に良かったです。日本では韓国についてあまり良い報道がされていないことなどもありますが、今回僕が実際に現地に関わったホストファミリーや他の韓国の方は、とても優しく、親切な方ばかりでした。自分の目で見て、実際に経験することの大切さを改めて感じました。また、何でも挑戦してみる大切

さも知ることができました。たった5日間というとても短い期間ではあったけど、僕の成長につながったと思います。視野が広がったし、韓国の良さも、日本の良さも改めて知ることができたし、何より韓国が大好きになりました。『I LOVE KOREA!!』

企画して下さった武蔵野市の皆様、迎え入れて下さった江東区の皆様、そして何よりもホストファミリーの皆様、本当にありがとうございました。

## 韓国と日本の食事マナーとその意識の違いについて

今回、僕は「韓国と日本の食事マナーの主な違いと食事マナーに対する意識」を研究テーマにしました。

僕は韓国に行く前、事前にインターネットや親からの情報で韓国の食事マナーについて調べていました。例えば、茶碗や食器は持ち上げずに、食卓に置いてそのまま食べる。箸やスプーンは縦にそろえて置く。最年長の方が最初に箸をつけてから食べ始める。食事中、立膝やあぐらをかいて食べることが常識であるなど、日本とは全くもって違うマナーだったので、現地では失礼に当たる行動をとらないように気をつけなければいけないなと思っていました。そのためホームステイ先での食事の際、最年長であるお父さんが食べ始めるのを待っていたのですが、最年長であるお父さんが「先に食べてもいいよ」と勧めてくれたり、お父さんより先にジファン(ペアの子)が食べ始めていたので、最初はびっくりしました。韓国は食事のマナーについては厳しい国だと思っていたのですが、意外とそうでもなく、家庭や人によってマナーに対する意識が異なることが分かりました。でも、あの時お父さんが「先に食べてもいいよ」と勧めてくれたのは、僕に気遣ってくださったんだなと分かり、嬉しくなりました。

他にも、日本では、誰かに作ってもらったご飯を残したり、音を立てて食べたりすることは失礼にあたるのですが、韓国では、大量に食べ物が出てくるので多少残すことは一般的でしたし、音を立てて食べる人も多かったです。しかし、帰ってからもう一度調べてみたら、韓国でもラーメンなどの麺類をすするとき以外は、音を立てて食べることはあまりいいことではないとされていました。最近は韓国人も音をたてて食べる人は少なくなってきたけれど、先ほどにも書いたように人によって意識は異なるため、まだ音を立てて食べる人もいました。ここでも人によって意識が異なることがわかります。

また、バイキングに行ったときに気が付いたのは、我々日本人はまず食べきれぬ量をとって、またおかわりするという人が多いのですが、韓国の方はみんな一口がとても大きく、食べるスピードも早く、一回でたくさんの量をついで一気に食べるという感じでした。また、韓国ではとにかくたくさんの種類の料理が出てきました。

日本と韓国の食事マナーやその意識について調べましたが、結局のところ人によって食事マナーに対する考え方や意識は多少変わってくることはあるけれど、両国とも、失礼に当たることはしないのがモラルであると分かりました。韓国以外にも、これからもっともっと他の国に行く場面で僕の学校にもあるので、またそのような機会があるときは、他の国の文化も自分の中に取り込んで、大切にしていきたいなと思いました。



## ✈️ 五日間の思い出 🛡️ (中2・女子)

私は今回の青少年交流団派遣事業を通して、本当に貴重な体験をたくさんしました。

一日目は、送ってくれた親、団員のみんな、市役所の引率の方たちのおかげで、不安よりも期待が上回っていました。ペアのダウンと仲良くなれるか不安でしたが、一日目から覚えた韓国語を使ってお話ができました。ダウンも日本語を使ってくれてすごく嬉しかったです。

二日目の夜、ホームステイの家族みんなと家でチキンを食べたりしました。食べている途中で、お母さんとお父さんとたくさん話して、嬉しかったです。その後、ダウンと妹のハウンちゃんとゲームをしながらアイスを食べました。二人がゲームで少し喧嘩しているところが、日本の兄弟喧嘩と同じようで、可愛らしかったです。また、ハウンちゃんも日本語を使ってくれて、仲良くなれて嬉しかったです。

三日目のロッテワールドでは、他のペアの子達と一緒に回りました。違うペアの韓国の子と仲良くなれるか不安でしたが、頑張っで覚えた韓国語を「上手だね」と褒めてくれました。ですが、一緒に行動する内に少し意見がすれ違ってしまったことがありました。私は知っている韓国語の単語を一生懸命並べて説明しました。そして、ペアの子たちも一生懸命に説明してくれました。その時、一生懸命に説明してくれて嬉しかったし、説明が伝わった時には、人と人は言葉が違っても通じ合えるのだと実感しました。

また、三日目の夜、ホームステイの家族みんなでお店に行く予定でした。ですが、私が車酔いをしてしまい、その予定が中止になりました。私は申し訳なくて、少し辛くて、その瞬間にはじめて日本に戻りたいと思いました。家に帰ってシャワーを浴びた後、お母さんが私の髪を乾かして、ハグをして「今日は休んでね」と言ってくれました。そんな本当のお母さんのように接してくれた優しさと温かさにエールを貰い、とても元気になりました。

四日目のさよならパーティーでは、私は K-POP ダンスメドレーを披露し、たくさん準備したからこそ、喜んでもらえて嬉しかったです。本当にお別れの時、四日間、ずっと隣にいてくれたダウンとお別れするのが悲しくて泣いてしまいました。ダウンは「泣かないで」と言ってくれて、最後にハグをしてお別れしました。

最終日は、本当にずっと韓国にいたいと思うほど帰りたくありませんでした。でも、そう思えるほど韓国のことが大好きになれたし、実際に韓国の色々な人と話して、言葉や文化の壁はあっても、すごく優しく温かい人が世界にいると感じた最高の五日間でした。

<このテーマを選んだ理由>

実際に韓国に行ってみて、町中にすごい！と思うところがたくさんあったから。

<行く前に調べたこと、考えたこと>

- ・トイレの横にシャワーがついていること。 →基本浴槽につかる習慣がない。
- ・道路は歩行者よりも車優先。 →運転が荒い？左側に運転席がある。
- ・箸やスプーンが金属製（ステンレス）。 →毒物を検出するために使われていた。
- ・年齢などの上下関係が徹底されている。  
→儒教の影響、呼び方が沢山ある、年上の人が先に食べるまで食べてはいけない。

<現地に行って分かったこと>

- ・トイレの横にシャワーがついていることは本当。 →実際に使ってみて少し不便。
- ・車のスピードが速い。思っていたより運転は荒くない。
- ・箸やスプーン以外に、食器も金属製。  
→実際に使ってみて、金属だと、冷たいものは冷たいまま食べることができる。木製だと、食べ物の変化するのを楽しめるのかなと思った。金属の方が冷麺を食べるときすごく冷たくて美味しいが、もっと持ちやすくしたら日本でも売れそうだった。
- ・私のホームステイ先は年齢の上下関係はあまりなかった。でも、家族や目上の人を大切にすることはすごく良いことだと思う。
- ・江東区は緑がとっても多い。町中が整備されている。
- ・歩行者用の信号機にカウントダウンしてくれる機能がついている。  
→便利
- ・韓国ではマンションをアパートと呼び、日本で言う高層マンション（30階くらい）がたくさんある。私のホームステイ先はマンションが10棟くらいあるところだった。
- ・駐車場は登録した車のナンバーに反応してバーが自動的に開く。
- ・マンションの玄関ドアは、暗証番号を押して開けるタイプが多い。
- ・韓国にもはんこの文化がある。 →韓国も婚姻届などにはんこを押すのかなと思った。



<結論>

日本と違うところがたくさんあった。便利なことも不便なこともあった。

実際に体験してみると、調べてみたくなる、関心のあることがたくさん増えた。自分の国の文化も他の国の文化も尊重し、認め合いたいと思った。

## ✈️ 言葉や文化の違いを乗り越えた韓国での経験 📍 (中3・女子)

私は武蔵野市青少年交流団の一員として、大韓民国ソウル特別市江東区に行きました。海外に行ったことは何回かありますが、今回韓国でのホームステイという貴重な経験をさせていただき、普段の旅行では味わうことの出来ない韓国の一般的な生活や文化を学ぶことが出来ました。

歓迎式でペアのジュンに会った時、私は緊張していてあまり積極的に話すことが出来ませんでした。でもその後区役所を出て、JYP の事務所の隣の JYP の練習生がよく食べに来るといいうごはん屋さんで軽く夕食を食べた時に、緊張が解けていき、少しずつ話すことが出来るようになりました。私は、この時に辛いものがあまり食べれないと話していたので、お母さんがそれ以降料理を出す時に、配慮してくれてその気遣いにとってもありがたみを感じました。その日の夜はジュンの住んでいるアパートの近くにある、ずっと行きたかった韓国の DAISO や、オリーブヤングにジュンと2人で行きました。家に帰ってくると、お母さんが夜ご飯を用意してくれていて、最後に一緒にトッポギを作りました。カードゲームやボードゲームもすることが出来、そこでも絆が深まったかなと思います。韓国語は単語レベル、英語もまともに喋れない私にとって、唯一の味方は翻訳アプリ。ひたすら言いたいことを調べながら、意思疎通が出来るようにと自分なりに努力しながら過ごしていました。

次に2日目は、自分の名前をハンガルの文字で彫って、はんこを作って、博物館とショッピングモールであるアンニョン仁寺洞に行きました。楽しみにしていたチマチョゴリは、猛暑の影響で着れなくて、残念だったけど韓国のショッピングモールに足を運んでみたかったからそこはとても嬉しかったです。そ



の後、ジュンの住んでいるアパートに帰って、家族全員でアパートのコミュニティセンターにある卓球場で、卓球ロボットと卓球をしました。私は初めて卓球にチャレンジしましたが、お父さんが優しく教えてくれて、最後にはお父さん対私とジュンで卓球の練習をしました。その後、アイスを買って歩きながらカラオケに行きました。韓国のカラオケはとても気になっていたもので、行けて良かったし、日本との違いも自分の目で確かめることが出来ました。その後もチキンのお店に行き、夜 22 時くらいにも関わらずお店には沢山の人が居て、日本ではあまりない光景だなと思いました。

更に3日目は、待ちに待ったロッテワールドに行くことが出来ました。ロッテワールドではずっと着てみたかった韓国制服を着て、団員の中で年も近く、仲良くなったたまきとそのペアの子と一緒に周りました。ロッテワールドは、韓国のディズニーのようなもので半分が室内、もう半分が屋外となっている遊園地です。この日もとても暑く、私達はほぼ室内で過ごしてい

ましたが、とても楽しい時間になりました。遊園地に海外の子と行くのは思っていた以上にハードルが高く、言語の違いにより、多少気持ちが伝わらないこともありました。それも含めて全て良い経験になったと思います。私達はロッテワールドに20時まで居たので、家に帰った後韓国のラーメンを食べて、ゆっくりと過ごしました。

最後に4日目は、韓国に来たら絶対行きたいと思っていた東大門と、明洞に行きました。東大門は、韓国の伝統的なお土産などが売っている場所で、東大門のショッピングモールに行くと、韓国のお土産やお洋服、アクセサリーなどを見ました。明洞は、地下鉄の中のエリアにお洋服や鞄、靴などが沢山売っているお店がずらっと並んでいて、そこでお洋服をたくさん買いました。日本と比べてだいぶお洋服の値段が安く、コスパも良くてわくわくしました。明洞は思っていた通り、日本人もとても多く周りから日本語が聞こえてくるとなぜだかとても安心しました。そして、韓国の観光を楽しんだ後、いよいよさよならパーティーの時間になりました。私は出し物で、ソーラン節と、全員で歌って踊る世界に一つだけの花、そして1人1人ハンガルの文字を紙に書いて、思いを伝えることが出来ました。出し物は、短い研修期間の中でもかなりの完成度まで持っていくことができ、4日間の感謝の気持ちを伝えると同時に、とても嬉しかったです。

今回韓国でのホームステイを体験することが出来て、たとえ韓国語や英語が喋れなくても、言葉の壁を乗り越えられるという新しい発見や、自分の気持ちを伝えようと頑張って努力した後の喜びを肌で感じる事が出来ました。この5日間での経験は、今後の私の将来にも大きく影響するものだと強く思います。本当にありがとうございました。

## 韓国と日本の違いについて

### <このテーマを選んだ理由>

韓国は日本にとって最も近い隣の国であり、文化の相違点などもあると思うので、実際に韓国に行き、そこで知った日本と同じところ・違うところをまとめたいと思ったからです。実際に韓国に足を運んでみなければわからない、様々な物事における日本とのつながりについて知りたいと感じたので、この研究テーマにしました。

### <行く前に考えていたこと>

- ・立て膝、あぐらはOK。韓国では日本と逆に正座は「罰を受ける時の姿勢」というイメージが強いらしいです。
- ・食べる時にお皿を持たないで、基本的にはスプーンで食べます。箸はおかずを取る時に使う程度だそうです。
- ・ペアルックをするカップルが多いそうです。
- ・湯船に浸かる習慣がないため、浴槽のない家が多く、シャワーだけで済ませる人がほとんどだそうです。「チムジルバン」と呼ばれるサウナや銭湯に行くことが多く、飲食物を持ち込んで楽しむ人もいます。
- ・韓国では男性に兵役義務があり、18歳から28歳の間に2年間、軍隊に入らなければいけないそうです。軍隊に行くことこそが韓国の成人男性の証とも考えられているそうです。

### <現地に行って分かったこと>

#### ・生活

韓国のアパートは、事前研修で聞いていたように高層ビルが多く、私のホストファミリーのアパートは高層アパートが何棟も集まっていて、団地のようになっていました。私のホストファミリーのアパートにはコミュニティ施設がいくつかあり、公園や池、ダンススタジオや卓球場などがありました。

韓国は、エスカレーターに乗る時は右側に立つのが東京と違うなと思いました。

信号は、日本と違い数字でのカウント標識になっており事前研修でも習った通り、信号が赤になった瞬間に車やタクシー、バスなどが走っていっていました。

また、国全体的に夜型志向で、夜遅くまでペアの子と2人で、もしくは家族で出かけました。小学生ぐらいの子どもたちが20時くらいでもお店に居たので、日本ではあまり想像できないなと感じました。

お風呂は朝に入ることが多いらしく、私とペアのジュン以外の家族は朝に入浴している様子でした。

#### ・食事

韓国では、日本のように取り箸や取り皿ではなく、シェアの文化が根強くある国だなと感じました。

## <結論>

結論として日本と韓国は近い隣の国なので、日本との文化の差はたくさんあるわけではなかったですが、事前学習だけでは学ぶことのなかった相違点を、実際に現地に足を運ぶことによって、学ぶことができました。また、普段の旅行の中ではなかなか体験することができない文化の違いなどを、ホームステイという形で知ることができたのも、今回の交流の鍵になったと今振り返ってみて改めて実感しています。

この5日間は、私の14年間の夏の中で一番充実した日々でした。このような貴重な機会を与えてくれた武蔵野市の市役所の方を初め、家族と一緒に韓国に行った交流団の皆本当にありがとうございました。この経験を私の将来に活かせるように今後も努力していきたいと思います。



## ✈️ 話してみる勇氣 🛡️ (高1・女子)

私は今回、交流団の一員として初めて韓国に行きました。出発前には事前研修がありましたが、周りの参加者はK-POPが好きで簡単な韓国語を話せる人も多く、私は韓国語の挨拶しか知らなかったため、少し不安を感じていました。韓国での最初の挨拶や自己紹介は無事に話すことができ、ホストファミリーともすぐに打ち解けることができました。

それでも、初めて会ったペアの子との会話では、頭が真っ白になってしまい、どうしようかと焦る場面もありました。けれど、家に着いた後には、翻訳機を使いながらもなんとか会話を続けることができました。この時、言葉の壁を感じながらも、コミュニケーションの大切さと楽しさを学びました。この出来事のおかげで私は韓国に到着してからの不安が一気に解消されました。特にバスでの移動中、街の景色を見ながら「あれは韓国語で何と言うの?」「日本語ではどう言うの?」と互いに教え合った時間が私にとって印象深い思い出です。私と同じように韓国語をあまり知らず不安になっている子には是非試して欲しいです。

韓国での生活を通じて、日本との文化の違いを強く感じることができました。例えば、深夜まで同年代の子たちが外出している光景や、軽装の人々が多いことがとても印象的でした。これらの体験は日本とは異なる生活形式や価値観を実感する瞬間でもありました。また、韓国での食事は非常に美味しく、自由行動の日にはショッピングも楽しむことができました。日々の生活の中で少しずつ韓国の文化に触れることで、毎日が新しい発見の連続で、充実した時間を過ごすことができました。

この留学を通じて、日本以外の視野が広がると同時に、「間違えてもいいからとにかく話してみる勇氣」を得ることができました。また、初めて親と離れて生活することで、自立の一步を踏み出せたと感じています。この経験は、将来の進路に対する考え方や選択肢を広げるきっかけとなりました。最初は派遣に対して不安だった故にあまり乗り気ではなかったのですが、今振り返るとこれまでの夏休みよりも刺激的で貴重な思い出となりました。

さらに、韓国以外の国にも興味が湧き、他の国の文化や雰囲気を知りたいという気持ちが強くなりました。旅行とは異なり、交流という目的のおかげで韓国の人たちと話せる貴重な機会を得られたことも良い体験でした。言葉の壁は高く、コミュニケーションに困ることもありましたが、それを乗り越えることで得られるものはとても大きいです。これからもさまざまな文化に触れ、まだ知らない世界を知ることができたらいいなと考えています。

## 日本と韓国の食文化について

私は今回、韓国と日本の食文化について調べていこうと思います。韓国と日本の食文化には、独特の違いや共通点があり、それぞれの国の食事習慣を知ることによって良い体験になると感じました。私がこのテーマを選んだ理由は、食べるのが好きで、韓国の食べ物やお菓子里に特に興味が惹かれたからです。この研修を通じて、韓国と日本の食文化における違いと共通点について説明していこうと思います。

事前に調べた日本と韓国の食文化で最も顕著な違いの一つは、お椀の扱いです。日本では、ご飯やお味噌汁を食べる際にお椀を持ち上げることが一般的です。しかし、韓国ではお椀を持ち上げることはなく、スープやおかずは箸やスプーンを使い分けて食べます。この違いを実際に韓国で体験した際、韓国の食事マナーとしてお椀を持ち上げないことがしっかり染み付いていることに気づきました。

また、食事の順番についても日本と韓国で異なる点があります。日本では、食事の際に誰が1番最初に食べるかなどの順番を決めずに、バラバラに食べる人が多いです。一方、事前に調査した情報では韓国では年長者が先に食べるというマナーが存在し、このことが一般的だとされていましたが、実際私が滞在したホストファミリーの家庭ではこのマナーは特になく、実際には席についた人が自由に食事を始めるスタイルでした。このことから、韓国でも家庭や状況によって食事のルールが異なることがわかったと同時に日本と同じスタイルで食事をしていると分かりました。



さらに、韓国料理で欠かせないものといえばキムチです。私の体験では、キムチは毎日出て朝昼晩のすべての食事に必ず出るわけではなく、約一日一回程度の頻度で提供されていました。キムチ以外にも、ビビンバやチキン、わかめスープなどが韓国では頻繁に食べられており、これらの料理が韓国では定番料理だと知りました。特にビビンバは、具材とご飯が分かれて提供され、自分で混ぜて食べるスタイルが一般的です。私の家庭ではビビンバを混ぜずに食べており混ぜて食べることに驚きました。

また、韓国ではタッカンマリという料理が人気です。タッカンマリは鳥一羽を煮込んだ料理で、非常に暑い日にあえて熱い料理を食べるという習慣があります。疑問に思い質問した私は、韓国人が暑い日に熱い料理を食べる理由として、汗をかくことで体温調節を行うという考え方を聞きました。まるでサウナのような効果を期待しているのだと知り、韓国の食文化には面白い部分もあると感じました。

これらの体験を通じて、日本と韓国の食文化には絶妙な違いがあり、食事のマナーや料理の習慣は場所や家庭によって異なることがわかりました。このような文化の違いを学ぶことは、国際的な視野を広げる上で非常に勉強になりました。今後はこの知識を活かして、さまざまな分野での理解を深めていけたらと考えています。

## ✈️ 感想 📁 (高1・女子)

私は小中高同じ学校に通っていてずっと同じ友人と過ごしてきて自分のみている世界が狭いと感じて、これから進路を選ぶ時のためにも他のコミュニティで交友関係を広げて、自分の視野を広げたいと思いこの派遣事業に応募しました。

韓国は近い国ではあるけれど、日本とは全然違う文化があって、その中で生活することでこうあるべきという固定概念を取り払い、物の見方や考え方の幅を広げ、柔軟な思考力をもち、今まで見えなかったアイデアや選択肢に気づけるようになりたいと思っていました。また、観光が一番の目的の旅行とは異なり、派遣事業の場合は現地の文化や生活を学びに行っているなのでその国の文化をより詳しく知ることができたり、またホームステイを通して現地の人の普段の生活を体験できる貴重な機会だと思い韓国に行く数ヶ月前からとても楽しみにしていました。

楽しみにしていた一方、意思疎通はちゃんとできるのかな？仲良くなれるのかな？など不安なこともたくさんありました。初めて会った時、ペアのドヨンも私もとても緊張していてなかなか会話が続きませんでした。帰りの車の中でドヨンのお母さんが日本語が話せたので積極的に質問してくれて緊張が解けていきました。お家に着くと妹さん、弟さん、お父さんも温かく出迎えてくれました。

二日目あたりから他のペアと4人で行動するようになり、話も弾むようになり毎日たくさんのお話を聞いて笑い合えるようになりました。私のホームステイ先のご家族はお母さんが日本語が話せたので一緒にいる時はドヨンと私の通訳をしてくださったのでとても安心でした。四日間、私を家族の一員のようにやさしく親切に接してくださったので行く前は色々心配していましたが何一つ困ることなく日本に帰って帰ることができました。私のやりたいことを聞いてくださってそれをいっぱい叶えてくださったので本当に貴重な経験になりましたし、とても感謝しています。

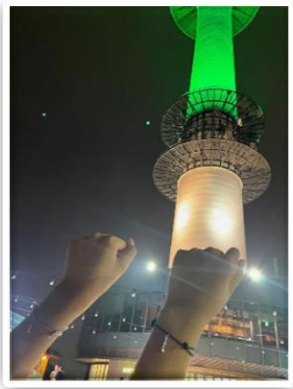
私が特に印象的だったのは食文化や家族の絆に対する考え方です。食事の際に感じた韓国の「一緒に食べること」の重要性は、日本の文化とも共通する部分がありながら、独自の温かさが感じられました。

私がこの派遣事業を通して学んだことは「何事も勇気を出して挑戦してみる」ということです。この派遣事業についても1人で五日間も韓国に行けるかな？ペアの子や他の団員と仲良くなれるかな？言葉が伝わらなくても大丈夫かな？という不安の気持ちがあり、応募するのを迷った時もありましたが韓国から帰ってきた今、あの時行くことを決断して良かったなと思っています。

また、私はK-POPのアイドルが好きだったので少しだけ韓国語を知っていたのですが、間違えたら恥ずかしいという気持ちが湧いてきて最初の方はなかなか自分から韓国語を話すことができませんでした。しかし、途中から私が勇気を出して韓国語を口に出すようになるとドヨンもとても喜んでくれて、それから私にいろんな韓国語を教えてくださいました。韓国人のドヨンとの会話をとおして教科書だけでは得られない言葉のニュアンスや表現を学ぶことができました。

この五日間を通して言語が通じなくても、人は仲良くなることができる、通じ合える、友情は築けるということを改めて実感しました。ペアの子と日本人の団員、両方と距離を縮められたのでよかったです。そして一番自分が大きく成長したなと思っているのは、もっと海外の友達を作りたい、また海外に1人で行ってみたい、留学に行きたいと思うようになったことです。この派遣で深まった外国に対する興味をこれからいろんなことに伸ばしていけたらいいなと思っています。

います。



<このテーマを選んだ理由>

日本と韓国は距離的にとても近い国ではあるけれど実際にどのようなところが違うのか知りたかった。

テレビやネットではわからない韓国と日本の違いを五日間の現地生活で知ることができると思ったから。

<行く前に調べていたこと、考えていたこと>

韓国では親に敬語を使う、年功序列

日本よりも韓国の方が IT 化が進んでいる

一軒家よりもマンションが多い

兵役制度がある

部活がない

男子校、女子校が多い

<現地に行って分かったこと>

学校で夜遅くまで自主学習する時間がある

子供もクレジットカードを使う

マンション団地が多く一軒家はほとんどない

子供が夜とても遅くまで出かけることがある

地下鉄の座席がプラスチックみたいな固い素材

お皿を持ち上げてはいけない

バスや電車の中にコンセントがあって充電できる

キムチ用の冷蔵庫がある

お風呂とトイレが同じ空間にある

電車の幅が広い

電車の中に防犯カメラがついている

年功序列：家族間での敬語は見受けられなかったが、バスや電車にあるお年寄りのための優先席には誰も座らない。日本では空いている時は座る人が多いが一度も若者が座っているのをみなかった。

<結論>

韓国と日本は地理的に近く、古くから交流もあることから、文化的に(食べ物や暮らし、町の雰囲気)似ている面がたくさんあった。しかし韓国と日本の教育の在り方、価値観においては少し異なる特徴を細かく言葉にできないことを含めて肌で感じた。互いの違いと共通点を理解して強みを共有することで相互に発展し、調和していけると思うし、そうなって欲しいと思った。

## ✈️ 青少年交流団に参加した感想 🛡️ (中2・男子)

8月1日の朝、僕は緊張とワクワクする気持ちの両方を感じながら出発式に臨みました。

初めての韓国とホームステイ、どんな経験ができるのか期待を胸に飛行機に乗りました。韓国に到着して、1番最初に空気が違うなと感じました。日本の空気とは異なる甘い香りが漂っていました。

その後江東区役所へ行きペアのハジュン君と会いました。ハジュン君の第一印象は背が高く大人っぽくて、同い年とは思えませんでした。弟や家族にやさしく接する穏やかな性格で、初日はゲームを通して仲良くなれました。夕飯を食べた後、ホストファミリーとカフェにかき氷を食べに行きました。暑い日に食べるかき氷はとても美味しかったです。夜ベッドに入るとマットレス上に竹製のマットが敷いてありびっくりしましたが、その竹マットが冷たくて快適に眠れました。

2日目は岩寺洞遺跡博物館に行き韓国の歴史を感じることができました。皆と仲良くなれるか心配でしたが、皆とてもやさしくてすぐに仲良くなれました。日本語が得意な子がいてくれたおかげで、お互いの意思疎通がスムーズにできました。街を散策するときは何をするか提案してくれて、ハンコ作りの時は韓国語の説明を日本語に翻訳してくれたので助かりました。その姿を見て僕も韓国語ができるようになりたいなと思いました。この日の夜はホストファミリーとゲームを夜遅くまでしました。韓国のお菓子を食べながら盛り上がりとても楽しい夜をすごしました。お菓子はグミやチョコレートなど日本で食べるお菓子と見た目も味もあまりかわらなかったです。

3日目のロッテワールドでは仲良くなったメンバーで楽しく回ることができました。ロッテワールドは名探偵コナンとコラボをしていて、またポケモンのゲームの話で盛り上がり、日本のアニメは韓国でも人気なのだと実感しました。この日の夜は焼肉屋さんに行き、サムギョプサルを初めて食べました。その後漢江を見に行きました。夜の漢江は水面に韓国の夜景が広がっていてとてもきれいでした。

4日目はいつもより遅く起きて、ロッテタワーに行きました。エレベーターに乗ると天井と壁にきれいな映像が流れていました。エレベーターから降りるとロッテタワーの歴史について説明が始まり、それが終わると扉が開いて窓からソウルの街を見ることができました。景色を見るまでにいろいろな仕掛けがあって面白かったです。お昼はビビンバを食べに行きました。僕は辛くない野菜のビビンバを食べましたが、ハジュン君はタコのビビンバを食べていて美味しそうでした。その後ロッテタワーモールに行ってお土産を買い、家に戻ると、もうホテルに向かわなければいけない時間でした。

さよならパーティーでは仲良くなったみんなとたくさん話して、あっという間にお別れする時間になってしまいました。とても寂しかったです。これからも時々連絡を取ろうと約束をしたので交流を続けていけたらいいなと思っています。

5日目は朝早くに起きてルームメイトと、どこに行ったかなどたくさんお喋りしました。朝食の後、観光した光のシアターでは **yogibo** に寝転がりながら映像を楽しみました。そして帰国し僕の交流は終わりました。

この経験を通じて僕は国同士の距離は近くても知らないことがたくさんあると気付きました。ホームステイをすることで、日本の暮らしとの違いを肌で感じることもできました。同世代のメンバーとは、お互い話す言葉が違っても仲良くなれ、一緒に楽しい時間を過ごすことができたのでとても

もよかったです。ホストファミリーや江東区役所の方、韓国で出会った人々も優しく、韓国の人の温かさを感じました。この貴重な経験ができるようサポートしてくれた皆様、ありがとうございました。



<このテーマを選んだ理由>

韓国と日本は距離が近く、日常生活や文化がどのように違うのか気になったので調べてみようと思いました。

<行く前に考えていたこと>

食事

- ・ ご飯と汁物はスプーンでおかずは箸で食べる。
- ・ スープにご飯を入れて食べても大丈夫。
- ・ 大皿におかずがあり、家族や友人と取り分けながら食べる。
- ・ 辛い食べ物や赤い色の料理が多く、キムチをよく食べる。
- ・ 食器は手に持たず食卓に置いたまま食べる。

伝統 礼儀

- ・ 韓国の伝統的な民族衣装のことを「韓服」(はんぼく)といい、その中でも女性用が「チマチョゴリ」で、男性用は「パジチョゴリ」といいます。
- ・ 韓国では立て膝やあぐらはマナー違反ではない。
- ・ 両手で握手をする。
- ・ 年功序列が日本よりも厳しい。

学業

- ・ 韓国の学校教育制度は6-3-3-4制。
- ・ 大学受験競争が激しい。
- ・ 夜遅くまで学校や塾で勉強してから帰ってくる。

その他

- ・ 右側通行
- ・ 韓国の焼肉は豚肉がメインである。

<現地に行って分かったこと>

食事

- ・ 朝ごはん以外はほぼ毎回キムチが食卓にあった。
- ・ 食事をすると1品はコチュジャンを使った料理が出てくる。
- ・ スープが毎回あり、それにご飯を入れて食べる。
- ・ 金属製の平べったい箸を使う。
- ・ 最年長が食べてから食べ始めることはなくなりつつある。
- ・ ご飯を食べ残すことがあるが失礼にはならない。

## 伝統 礼儀

- ・韓服は名節時や結婚式など特別な日の儀礼衣装として親しまれている。
- ・最初に会った時の握手は両手でした。

## 学業

- ・子供部屋には大量の教科書や問題集があった。
- ・塾に行っていない学生はほとんどいない。
- ・受験生は夜遅くまで勉強して1時ぐらいに寝る人が多いと聞いた。

## その他

- ・右側通行だった。
- ・連れていってもらった焼肉屋さんは豚肉のメニューが多かった。

## <結論>

- ・食事は日本と同じく箸を利用しますが、金属製の平べったい箸を使います。また、スプーンをよく使います。食器も金属製のものが多く使われていました。韓国では、料理を残しても失礼には当たりません。逆に食べきってしまうと「食事が少なく物足りなかった」と思わせてしまうこともあるそうです。
- ・伝統の韓服、日本の着物も時代の流れにより位置づけがかわってきた。
- ・礼儀は日本でも目上の人を敬う文化がありますが、韓国では上下関係が日本より重視される傾向があります。目上の人を敬うことを重視する背景には儒教の影響が今も残っているためと考えられます。日本では正座が良い姿勢とされますが、韓国では立て膝やあぐらはマナー違反ではありません。韓国では逆に、正座は「罰を受けるときの姿勢」というイメージも強いそうです。
- ・学業は韓国と日本の教育の共通点として、学問を重視する学歴社会の風土が残っている点があります。韓国は超学歴社会で、受験戦争は大変なものだといわれています。
- ・その他には、湯船につからずシャワーが多い。一軒家は少なく高層マンションが多いことがわかりました。

韓国と日本は生活や文化で共通点もありましたが違う点も多くあると感じました。マナーについては日本でタブーとされているのが、韓国では良いマナーとなっていることもありました。5日間で両国の違いや共通点を知ることができて勉強になりました。今後も色々なことに興味を持ていきたいと思います。

## ✦ 私の過去、今、未来 📁 (高1・女子)

今回の韓国研修を経て、実際に韓国を訪れたからこそ印象に残ったことがある。韓国の人々が東京の人々よりも目の前の人、起こった出来事を大切にするということだ。例えば、商店街に行った時も値引きしてくれたり、お店の人が日本語で話しかけてきたり、ということもあった。商売としてそのような対応をしていたのだろうが、値引きしてもらったり、街中にて日本語で話しかけてくれたり自分と向き合ってくれていて嬉しかった。さらに、なにか問題が起こった時に曖昧にしないことが多かった。ある韓国の友達は買った商品に問題があった時にそれを店の人にしっかりと伝えて交渉していて日本との文化の差を感じた。日本では大人でも、人によっては、店で違うメニューが出てきても何も言わない人がある。しかし韓国では中高生ですら、小さな不備でもしっかりと店に伝える。店側も客側も目の前の出来事を真摯に受け止めてその場にあった対応をしていることが良い文化だと、印象に残った。

ホームステイではホストファミリーに本当に感謝している。私は1人で外国に行くのが初めてで、持っていくものなど不安だらけだった。しかしファミリーがタオルや変換プラグなども用意してくれていた。さらにシャンプーやリンスなどに全部英語を書いてくれていて、そのような細かい気遣いが自分を安心させ、暮らしを快適にしてくれた。自分がホームステイの受け入れをするときは今回ファミリーがしてくれたような対応をしようと決めた。しかし心残りもある。それはホストファミリーに話しかけに行くのが少し消極的になってしまったことだ。ご飯時や外出した時は英語が多くなったものの、韓国語を使いながら会話をすることができた。だが外出先から帰って夕食までの時間、部屋に1人でいることが多々あった。ホストシスターだけでなく他の家族に話しかけに行くチャンスだったが、特に話す内容もないな、と考えて部屋に留まってしまった。当時は勇気がなかっただけで、今考えると、その日の感想や感じたこと話したいことはたくさんあった。できるだけ韓国語で話そう、と思っていたので自分のボキャブラリーから言葉を紡ぎ、翻訳機を使うことなどに時間がかかり、なかなか踏み出せなかった。韓国語をもっと勉強していけば良かった、というのはもちろん、英語でもいいからもっとコミュニケーションを取るべきだった。まず相手とどうにかしてコミュニケーションをとって、そこで生活習慣などを多少知って興味を持って、言語などを含め深く相手の文化を学ぶというステップを踏むことが良いと知った。また次回ホームステイすることがあれば、もっと積極的に話しかけたい。

現地の青少年と関わり、お互いの文化を共有しあい、新しい友達がたくさんできた。家族と観光として行くのではなくホームステイとして行くことで、まず申し込みの時点から「行こう」と決断した自分に自信がついた。さらに実際訪れて学んだ韓国語を家族や店員さんに言うときにも勇気が必要でそれができた自分を誇れた。帰国した今では「もっとこうしたかった、勉強したことを言えなかった」など思い残したことがある。その気持ちがまた外国へ、そしてホームステイしに行きたいと自分の未来の目標も作った。韓国に行くまで、滞在中、帰国後、これらのタイミング全てで自分の成長を感じ、未来につながる良い経験となった。このような貴重な体験をできたことを非常に嬉しく思い、これからもいろいろな国へ行き、さらなる成長を目指したい。

現代は SNS で自由に、グローバルに、人々と関われるという。今後もそれはもっと広範囲に、多くの情報が飛び交う場となるだろう。しかし日本の SNS をみていると、実際、外国に行ってもその国の人と関わったことがないまま、むやみやたらに他国の文化や人々を批判している人がいると思う。その国の歴史上の出来事やある少数の人物が行った良くないことを、さも現代のその国の全ての人が行うこと、と捉えて「それは良くない、つまりその国の全ての人みんなだめ」と意見しているのだろう。韓国へも、文化を受け入れようとせず、歴史上のことを表に出して「これだから韓国人は」とつぶやく人がいる。そのような意見を見る度に不快になった。学校の歴史の授業などを通して戦争中、日本が韓国を含め、外国へ残虐なことを行ってきた、と知ったからだ。これからはそのようなことがないように世界全体で協調していく姿勢を見せていくべきだと気づいた。しかし一部の SNS 上の人には日本がしたことは仕方のないことで外国のしたことが悪い、というような日本だけを棚に上げた発言をしている。それを見た外国の人は傷つき、日本への印象が悪くなってしまうかもしれない。このような不安を抱えたまま生きていくたくはない、と想っていた。その気持ちを解消したいと思い、韓国と日本の文化を比較しようと考えた。同じ所を見つけ、違うところは尊重し合える、そのような関係性を築けるようになりたい、と考えたためだ。

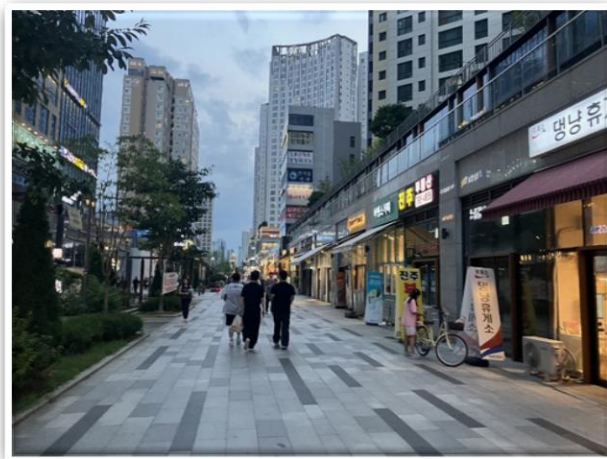
まず前提として、韓国と日本はかなり文化が近い。近隣の国であること、歴史上の出来事なども大きく関係しているだろう。そのためまずは日常生活で異なっていた文化を紹介する。1つめはよく知られていることだが、キャッシュレスが広く普及していることだ。私が訪れた商店街や観光地、レストランなどでクレジットカードが使えない、ということはない。2つめに韓国ではご飯に関してもったいないから残してはいけない、という文化はない。レストランに行っても全く食べきれない量が出てきたり、残しても誰も何も言われなかったりする。韓国以外の外国でももったいない精神があるところは少ない。つまり日本が特殊なのかもしれないが、ここは日本と韓国とで差であった。



次にサブカルチャーにフォーカスしてみる。ネットで日本ほど K-POP や韓ドラの人気のない、と事前調べのときに見た。しかし実際韓国人の友達から話を聞くとそんなことはなくて、韓国でも人気があるそう。街中に大きなアイドルのグッズショップがあったので、その人気は確かなものだと思った。さらに韓ドラに関しても人気だろう。街中に韓国俳優の広告などがたくさんあったことに加え、ホストファミリーと俳優の話で盛り上がったこともあったからだ。しかしそのときホストシスターはあまり食いついてこず、K-POP のお店でも主に居たのは中高生だったので、世代によってサブカルへの興味が異なっている、と考察した。韓ドラは日本では中高生から大人まで人気があり、K-POP もある程度幅広く人気があると

思うのでここが異なる点かもしれない。

このように比較してみて多少異なるところはあった。しかし前述の通り、他の欧米諸国等と比べたら相当近い文化であることは明らかだ。その国について知ることによってその国の人々を受け入れやすくなる。その国の人とのコミュニケーションにおいて戸惑うことがあっても、それは文化の差から生まれるものであり、その人の人格から生まれるものでない、と考えられるためだ。その国の文化も知らず、その国の人々の人格を否定する、そんな人にはなりたくないし、見たくもない。しかし SNS 上でそのような人を見かけても、今回までは自分が実際韓国に行ったことがなかったため「それはちがう」と断言はできなかった。韓国に行って一般家庭にホームステイをして、その意見が正しくないと証明できるようになった。今回ただ日常生活における文化の差をあげるだけでなく、サブカルについて考えたのは、SNS をよく見る世代にもこの経験をわかりやすく伝えたいと考えたからだ。私はこの経験を通して SNS をみて思った、「もやもや」した気持ちを解消できるようになった。自分が訪れることでそのような「もやもや」を解消できると学んだのだ。その「もやもや」を一つでも多く解消するため、様々な国へホームステイに行きたいと強く願う。さらに私と同じように「もやもや」を持つ人、又聞きした話から異文化への悪い先入観を持って外国の人に接してきてしまった人にこの文が届き、その嫌な気持ちを解消するヒントになることを願っている。



## ✈ 人の心の温かさに触れた、韓国研修 🛡️ (高2・女子)

私は、今回の研修で韓国を訪れる前まで、韓国人はクールな人が多いのではないかと、考えていた。何故なら韓国では、日本とは違い、接客のイメージが少し冷たい印象だったからである。

しかし、ホームステイ先のご家族は、とても優しく、気さくな方々であった。日本の多くの家庭では、子どもがいる家庭においても、羞恥心のため、家族同士の愛情表現をあまりしない傾向がある。それに対し、ホームステイ先は、数日しか共に生活をしていない私から見ても、非常に家族思いだと分かるほどに家族がお互いを思い合い、尊重しあっている家庭であった。特に印象的だったのが、兵役中であるお兄さんが過酷な訓練のため、倒れてしまった際の出来事である。一日目の夜、両親はお兄さんのいる病院へ急遽赴いたが、ペアの子だけ、私がいるため、行くことができなかった。ペアの子は、大好きな兄の現状がわからないまま、1人で私をもてなさなければならず、非常に不安だったことだろう。そんな状況にもかかわらず、戸惑いながらも私を気遣い、楽しく話しかけて来てくれたのだ。私は、なんだか申し訳ない気持ちであったが、同時に、その子の優しさに心を打たれた。

また、今回の韓国研修で、何よりも思い出深い出来事は、ホストファミリーが、もうすぐ誕生日の私のために、韓国の方式で誕生日を祝ってくださったことだ。バースデーケーキや縁起の良いワカメスープなど豪華な韓国料理を振舞ったり、韓国語版の **Happy Birthday** を歌ったりと、私がまるで家族の一員であるかのように接してくださったことが何よりも嬉しかった。

私は、韓国語を簡単な単語程度しか話すことが出来なかったため、ホームステイ先でのコミュニケーションが上手く取れるか心配していた。しかし、初めてホームステイ先の自宅に入った時には、ホストマザーが「ようこそ、お会いするのを楽しみにしていました！」と日本語で温かく出迎えて下さり安心して滞在期間を過ごすことが出来た。

そして、皆でキンパ作りをしたり、日本のことについて紹介する中で、つたない韓国語や英語を用いて家族の皆さんと沢山話すことが出来た。新しい韓国語を覚えたり、韓国の文化についても直接知ることができたと感じている。

今回の韓国でのホストファミリーとの温かい交流を通じて、他国の人と友好関係をさらに深めていくためには、相手を尊重し、理解しようとする気持ちが不可欠であると実感した。

<選んだ理由>

このテーマを選んだ理由は、歴史の中で反日教育について私が知っているのがほんの一部に過ぎないと思ったからです。学校の授業で学んだ韓国や日韓関係についての知識は、偏ったものであったり、限られているのではないかと思います。何故ならば、以前、沖縄戦についてアメリカ人の留学生と話した際に、戦勝国側と敗戦国側では同じ戦争に対する見方が異なることに気づいたからです。そこで、物事を偏った視点で判断するのではなく、加害者側と被害者側の両方の視点から問題を見ることが重要だと考えました。また、現地の人々との交流を通じて、日本で得られる情報だけでは分からない、韓国の人々の生の意見を直接聞きたいと思い、このテーマを選びました。

<行く前に調べていたこと・考えていたこと>

全員が反日感情を持っているわけではないが、授業で使用されている歴史教科書には反日感情を煽るような内容が多く含まれている。また、一部の教師が生徒に反日感情に基づく教育を施しているのではないかと。そして、このような日本と韓国における歴史認識の違いが、日韓関係がいまだに完全には改善されない理由の一つであると考えていた。

<現地に行って分かったこと>

私は、反日教育についてホストシスターとホストマザーに尋ねたところ、予想とは異なる答えが返ってきた。ホストマザーによれば、日本について反日的な思想に基づいた教育を行うことは学校で禁止されており、もし行った場合は罰せられるそうだ。また、ホストシスターも、現在歴史を勉強しているが、そのような教育は学校で行われていないと話していた。さらに、No Japanのような反日感情を持つ人がいたとしても、その考えは家庭内で共有されるものであり、対外的に表現するものではないそうだ。続けて、ホストマザーは、「許し合い、過去の過ちを認めることで、お互いにもっと良い関係が築けるはずだが、現実には、そうでは無い。今、韓国と日本は、互いに痛みを感じているのだ」と仰っていた。そして、最後に「この問題は大国間の関係に関わるものだが、あなたが関心を持ってこのテーマに取り組んでいることに驚いており、感謝している」とも話して下さった。

これらの話を聞いて、私は今日の日本のマスメディアが大衆の興味を引くために、正確ではない偏った報道をしていると感じた。そして、そのような報道が広がることで、私のように韓国に対して偏見を持つきっかけになっているのだと分かった。今日、日韓両国に必要なのは、お互いの立場に立って過去の出来事を振り返り、それぞれの国の痛みを理解し、互いの視点から歴史を学ぶことで、歩み寄ることであると思った。

<結論>

今回の研修を通して得た学びは、現地に赴かなければ、得られなかつただろう。私は、いくら情報化の進む社会であろうと、実際に当事者の話を聞き、直接情報を得ることが大切だということを痛感させられた。

私のように、偏見や憶測で、韓国人は反日感情を持つ人が多いのではないかなどと考える人もい

るのではないだろうか。しかし私は、今回の研修を通し、これからの時代を担う若い世代が、偏見なく、お互いの文化に興味を持ち、理解しようと歩み寄ることができれば、より良い関係を築き、過去の問題解決に踏み切ることができるのではないかと考えた。また、多くの人が偏見なく歩み寄ることが可能になるには、自分が今考えていることが、本当に正しいのか否かを見極め、判断することが大切であろう。

## ✈️ 感想 🛡️ (高2・男子)

このプログラムに参加するまで、あまり海外に行きたいと思っていなかった。海外に行ったことがなかったので、なんとなく不安な気持ちもあり、あまり気が進まなかったからだ。ただ、海外に行くことは、視野が広がって成長できるということも感じていた。そんな中、このプログラムを見つけた。あまり良い言い方ではないが、ある意味「市の方々が連れて行ってくれる」この企画は、自分が海外に踏み出す絶好の機会だと感じた。

そして、実際に韓国に行き、海外に対する漠然とした不安は全くなくなった。それは、偏にホストファミリーや江東区役所の方々が非常に親切にしてくれたおかげだと思う。

ホストファミリーは、私の質問や疑問、やりたいといったことに全力で応えてくれた。また、スマホの翻訳ツールでたくさん話しかけてくれた。初日はとても緊張していたが、車の中でフレンドリーに話しかけてくれて、ホームステイの4日間をとっても楽しく過ごすことができた。

そのホームステイ生活はとても充実していた。

初日は皆でサムギョブサル（焼肉）を食べ、帰り道にタンフル（果物入りの飴）を食べた。その後南山タワーに行き、皆で夜景を見ながらたくさん写真を撮った。

2日目は母の手作りキンパ（海苔巻き）を食べた後、映画を見に行った。韓国語版のコナンの映画だったので絵を見て何となくわかった。展開が複雑なところはペアの子が英語で教えてくれた。その後、写真の店でプリクラのようなものを撮り、家でソルビン（雪氷）を食べた。

3日目はまず、皆で餃子を作った。韓国は買った餃子を食べるのが一般的らしいが、ホストファミリーは「うちではいつも自分たちで作る」と教えてくれた。我が家も普段自分たちで餃子を作るので、うまく作ることができた。韓国と日本では、一般的な餃子の包み方が少し違ったので、様々な形の餃子ができて楽しかった。その後、家の屋上で果物を食べ、スーパーマーケットで買い物をした。スーパーでは、インスタントラーメンのコーナーがとても大きかった。数十種類のラーメンが一面に並んだ棚が韓国人のラーメン愛を物語っていた。

そして4日目は朝に景福宮を観光した。景福宮は、韓国の5大宮殿の中でも最初に建設されたもので、「朝鮮の最高の宮殿」と言われている。その呼び名も伊達でなく、迫力のある建物が数多く建っていた。その後、国宝第一号の崇礼門や韓国最大級の市場の南大門市場を回った。家に帰って少し休憩した後、家族で韓国の名節にやるボードゲームであるユンノリをやった。



このプログラムで多くの貴重な経験をし、自分の視野が広がったと思う。また、海外に対する漠然とした不安は消え、より関心が深まった。

受け入れをしてくれたホストファミリーと、このプログラムを企画、準備、引率して下さった武蔵野市役所、江東区役所の皆さまに感謝すると共に、この経験を今後に活かしていきたいと思う。



<このテーマを選んだ理由>

日本では、学校で勉強しつつも部活動にも重きを置いている学校は多い。一方韓国の学生は、勉強熱心で高校・大学進学率がとても高く、頭がいい人が多いイメージがあった。そして、事前研修で韓国の高校生は「基本、部活動はない」と学んだ。そのため、韓国の同世代の人は、実際にどのような生活をしているのか気になったから。

また、私は学校で軽音楽部に所属してバンドをやっており、同年代のバンド事情に興味がある。ただ、日本で聴く韓国の音楽の話だと、K-POP の話題は聞くが、バンドに関するものはあまり聞かない。そのため、バンドについても少し詳しく知りたいと思ったから。

<行く前に調べていたこと・考えていたこと>

韓国には基本部活動はなく、スポーツをしている学生はプロを目指している場合である。また、部活をすることよりも勉強をすることが推奨され、学校の授業の後に夜間自律学習という勉強時間が設けられ、一日中勉強する。

また、韓国では特に大学受験がとても重視され、試験当日は小学校・中学校・高校は休校、出勤時間や飛行機の時間も騒音防止や受験生の移動の妨げにならないように調整される。

中高生の時に部活でバンドをする人が少ない。また、ライブハウスの数は日本の1%ほどしかない。バンドだけで食べていくことは難しく、韓国にバンドの文化はあまりない。

(以上の内容はすべて日本語の韓国に関する情報が書かれたウェブサイトなどの情報である。)

<現地に行って分かったこと>

ペアの子の高校では、40種類以上の部活動があり、全校生徒が必ずどれかの部活に所属する。ペアの子は、吹奏楽部に入っているほか、部活以外にもバスケットボールの教室に通っている。

そして、その学校の部活の中に軽音楽部のようなものもある。また、韓国では韓国のバンドも有名で、バンド曲も普通に聞く。

(以上の内容はすべてホストファミリーなどに聞いたことのまとめである。)

<考察>

「郷に入っては郷に従え」のためにも、旅行などで海外に行く前にその地域のことを調べることは大切である。そして、実際その知識が現地で役立ったことは数えきれないほどあった。ただ、その「この国はこのような傾向にある」というような情報を鵜呑みにして信じ込む先入観は、時には間違いを生む危険性をはらむと感じた。また、現代社会は情報であふれていて、簡単にインターネットなどで知りたいことを調べることができる。そんな中で、自分の手で実際に調べることの大切さも感じる事ができた。

<結論>

行く前に調べたことが間違っているというわけではないが、ペアの子の学校では、事前に調べたことと違う回答が得られた。韓国にも、学校の授業とは別に部活動に力を入れている学校がある。

そして、単に趣味として、部活や教室でスポーツや芸術をやる人はいる。また、韓国にもバンドの部活動はあり、中高生でバンドをやっている人もいる。そのうえ、バンド曲も他の音楽と同じように有名である。

# アンケート集計結果

## 団員へのアンケート

### 1. 江東区への青少年交流団に参加した感想とその理由を教えてください。

大変良かった	12
良かった	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

- ・実際に現地に訪れ、現地の人と交流したことにより、ネットの情報などではなく、生の声を通して偏見なく韓国の文化について、学ぶことが出来たと感じています。また、私は、今回のプログラムを通して、現地に赴いたことによって、今まで自分の本やネット上の情報だけにとどまった知識では、完全には相手のことや今、起きている問題など、完全に理解することはできないのだと理解しました。
- ・海外に行くことでお互いの違いを認め合うなどの大切さに気がつくことができたと思います。特に日本と文化や人が似ているところを多くもつ韓国だったからこそ、違いに気が付きやすいとともに似ていることがあることへの安心感から、互いを認め合う意識を得られやすかったと思います。また言葉については、自らの英語の力がどれくらいなのか、言葉が通じないとはどのようなことなのかを身をもって体感できたと思います。そして、自分を変えるチャンスをいただくことができたと思っています。今まで自分のやりたいことに消極的になってしまうことが多くありました。しかし、この事業に参加して事前研修や韓国で人と関わり合う中で協力する姿勢であったり、自分の意見を発信することの大切さを知ることができました。今まで自分の意見を発信することに対して抵抗を持っていましたが、この事業を通して言わなければ伝わらないこともあるのだと実感することができました。更に、この事業に参加しなければ会うことがなかったであろう団員たちにも会うことができました。韓国の友人だけでなく、日本の友人とも会うことができました。
- ・今まで日本で韓国語の勉強をしていたため、単語や文法を覚えても実際に使う機会がなかった。しかし今回のホームステイを通して韓国語でコミュニケーションをとれたことで自分の実力を再確認し、次の学びに繋げることができると感じた。また、今回の交流で出会った韓国の友達と日本に帰ってからも連絡を取れているのもよかった。ペアの子じゃなくさよならパーティーで仲良くなった複数名ともいい関係を築くことが出来た点もよかった。
- ・ペアの子やホームステイで迎えてくれた家族がとっても優しくて、少し短い5日間の中で、貴重な体験をたくさんできたから。さよならパーティーの時と最終日、まだ韓国にいたいと思ったから。
- ・この派遣事業を通して自分が大きく成長し、また貴重な経験がたくさんできたと感じたからです。韓国というとても近い国でも文化や価値観が大きく違い、テレビやネットでは知ることができない韓国人の実際の生活を知ることができました。また、言語が通じなくても、人は仲良くなることできる、通じ合える、友情は築けるということを改めて実感しました。ペアの子と日本人の団員、両方と距離を縮められたのでよかったなと思っています。そして一番自分が大きく成長したなと思っているのは、もっと海外の友達を作りたい、また海外に1人で行ってみたい、留学に行きたいと思うようになったことです。

- ・現地の青少年と関わり、お互いの文化を共有しあい、新しい友達がたくさんできた。家族と観光として行くのではなくホームステイとして行くことで、まず申し込みの時点から決断力が必要で、行こう、と決断できた自分に自信ができた。さらに実際訪れて学んだ韓国語を家族や店員さんに言うときにも勇気が必要でそれができた自分を誇れた。さらに帰国した今では、もっとこうしたかった、勉強したことを言えなかった、など思い残したことがある。その気持ちがまた海外へ、ひいてはホームステイしに行きたいと自分の未来の目標を作った。韓国に行くまで、現地で、帰国した今、これらのタイミング全てで自分の成長を感じ、未来にもつながる良い経験となった。
- ・韓国の同世代のみんなと仲良くなり、韓国についてたくさん知ることができたから。
- ・韓国のホームステイでのホストファミリーとの関わりや、韓国に友達を作ることにも出来て、普通の旅行では絶対に体験できない充実した5日間を過ごすことが出来たから。
- ・海外に行ったことはあったけど、韓国に行ったのは初めてでした。なので、最初はホームステイするのがとても緊張したし、すごく心配でした。でも、実際に行ってみたら、韓国の方がみんな優しく親切な方だったので、安心して5日間を過ごせました。5日過ごしてみて、韓国の方はとても優しく、親切な人が沢山いて、韓国の良さはもちろん、日本の良さも改めて知れたので、僕の視野が広がりましたし、僕の中でも出国時より成長できたと思いました。
- ・韓国の同年代の人と友人になれたから。また、韓国の方の家にホームステイすることができ、新しい発見が多く貴重な経験になったから。
- ・最初はなかなか韓国語がわからず、ホストファミリーのペアの子と馴染めるか不安でしたがとっても仲良くなることができました。ロッテワールドや自由時間のあった4日目では私と私のペアの子、友達とそのペアの子の4人で行動していましたが色んなおすすめを教えてくれて韓国の色んな部分を満喫できました。
- ・私自身初めての海外でもあり、ホームステイでもあり、初めて目にするものがとても多くてこれからの人生に関して学ぶことが多かった様に感じたからです。韓国語を勉強していたこともあってか、会話をする時にはほとんど韓国語で会話をするのができたし、語学の面に関しても実力を伸ばすことができたと思うからです。

2. 役に立った研修内容とその理由を教えてください。

内容	理由
韓国マナーについて	事前に、韓国のマナーについて学んでいたことによって、意識して韓国のマナーに従うようにしました。また、実際に現地の方々が、韓国特有の行動をしている姿など、注目して過ごすことができたのが、とても良かったと感じているから。
韓国の文化について（特に水回り等の衛生面、人との関わり方、マナーについて）	日本との違いが大きく出るのは水回りだと考えていたので、水回りのルールを知ることができて安心して韓国に行くことができました。また、日本と違って水洗トイレが少ないので気をつけなければと意識しながら動くことができました。研修で知らなければ韓国で困っていたと思うので知ることができてよかったです。マナーについても教えていただけてよかったですと思っています。交通マナーは命にも関わるので役に立ちました。また、食事のマナーも日本とは違うこともあるということを知って行けたので韓国で食事をするとときに困ることが少なかったです。特に韓国では食事を残してもよいと知れたことは役に立ちました。日本では残すことはマナー違反だと子どもの頃から言われていたので、残すことへの抵抗がありました。しかし、ホストファミリーとの食事の時に食事を残してしまう時に韓国ではそういう文化があるのだと、残すことへの罪悪感が少しは減りました。また、日本とは少し違った上下関係についても知れてよかったです。日本よりも厳格かもしれないと意識しながら動くことができました。
韓国文化	浴槽がなくシャワーだけの家庭が多いということを知らなかったら、現地に行ってびっくりしてしまったと思うので事前に知れてよかったから。
韓国語、韓国文化、マナー、体調・衛生面の管理	事前研修で教えてもらった韓国語を、ホームステイ先で使って、通じたから。
韓国文化、マナー、ハングル、挨拶	実際に使う機会が多かったから。
韓国語、トイレトペーパーの話	事前研修で学んだ言葉のほとんど全てを使えた。最初にホストファミリーに話す一言目を学べていたから、不安はありつつも勇気を出してコミュニケーションをとることができた。さらに日常的に使う言葉を事前研修で覚えていたから、相づちや同意などのふとした瞬間に使えて、しっかり相手と会話をできたという実感が湧いた。韓国語手帳もとても役に立って、最初スマホの翻訳もネットがなくて使えなかったときにファイル化してスマホに入れたそれをみてなんとか言葉を繋ぐことができた。ペーパーも事前研修の段階で知っていたからしっかり対応できたが、知らなかったらすごく焦っていたと思う。
韓国語研修、マナー研修	韓国に行った時に語学手帳を見て使ったり、マナーについても事前に知っていたので困らなかった。
韓国文化、マナ	韓国に実際に行きホームステイをした際に、韓国語はもちろん韓国の文化

一、韓国語講座など	やマナーを学んだことによって、日本と違う文化であっても、動揺することなくすんなりと受け入れることが出来たから。
食事マナー	日本とは全く違う食事マナーだったので、マナーについて気をつけなきゃなと思って、日本でもちょっとしたことでも気にかけて、誰かに迷惑をかけないようにマナーを今後もしっかり守っていこうと思いました。
韓国語講座、交通	これをきっかけに韓国語の短いフレーズを覚えたことで、韓国語で感謝を伝えたり挨拶などができるようになり、ホストファミリーとの距離が縮まったように感じたから。日本の交通制度・慣習に慣れていると、韓国の車の運転に少し驚いたので、事前に知っておいて良かった。
韓国語を教えてもらったらとりあえず声に出す。	例え発音や言い方に間違っているかと不安があってもとにかくどんどん韓国語を言えば些細な挨拶でもすごい！と褒めてくれて自信ができました。単語帳の言葉を少しでも覚えておくといいと感じました。
韓国の文化	韓国と日本は近い様で遠くて、文化に関しては違うと覚えることが多かったのだから先に教えていただけてすごく助かりました！！特に食文化の面で違う部分も多かったのだから役に立ちました。

### 3. 研修回数の評価とその理由を教えてください。

適当である	11
多すぎる	0
少なすぎる	1

#### 理由

##### ■適当である

- ・プログラムに参加した皆が、それぞれの学校行事や、家庭の事情があったと思うが、すべての研修に揃って参加でき、事前に、お互いの仲を深めることができたと感じている。そして、韓国のマナーや文化、言語などわかりやすい説明で、しっかりと理解することができたと感じているから。
- ・韓国について学ぶ時間も適当だったと思います。知っておくべきことを3回にまとめて、大事な部分だけの抜粋のような形で聞くことができたので無駄なことがなくわかりやすかったです。  
出し物についても適当だったと思います。ダンスについては少し足りないかとも思いましたが、短い時間の中でどれだけ仕上げられるか、自分が練習できるかという自分の意識を確かめる機会になったのではないかと思います。更に、今後時間がない中でやらねばならぬことも増えると思うので、その練習にもなったと思います。
- ・知りたかった韓国の文化などを事前にある程度知ることができたため。また4回あった事前研修を通して徐々に団員と仲良くなることが出来たため。
- ・全ての研修の内容が、実際に韓国に行って役に立ったと思ったから。
- ・基本のキミたいな文化だけ学んで、あとは現地に行って新しい体験に驚く、というバランスが良かったと思うから。
- ・出し物の練習や語学などの研修の時間が充分に取れていたから。
- ・韓国の文化やマナー、韓国語に加えて、出し物も4回という短い期間の中で完成することが出来たから適当だったと思う。事前に情報を色々と教えてもらったことで安心して行くことが出来た。
- ・4回ぐらいで丁度良かったと思います。一回の研修で2～3時間というのも長すぎず、短すぎず、丁度集中できる時間具合だったので、これ以上多くしたり、少なくしたりする必要はないと思います。
- ・特に研修で追加で習いたかったことや、やりたかったことがあったと感じることはなかったので、妥当だと思う。
- ・長い事前研修の中でテスト期間と重なる部分が（5月ごろ？）あったけれど2週間に1度のペースのおかげで休日の勉強に支障がでにくいので丁度良いと思いました。
- ・2週間に一回のペースであり、心構えも形成できて、出し物などを練習する中で団員同士でも仲良くなることができたから。仲良くなることによって、韓国にいる間も不安もなく過ごすことができたと思います。

##### ■少なすぎる

- ・もう少し、日韓の関係について学ぶ、韓国語を学ぶことができたらよかったと感じたから。

4. 事前研修で扱わなかったことで、事前に知りたかったことや次回団員に伝えたいことがあれば教えてください。

- ・想像以上に、マナーの悪い韓国のトイレもあったので、潔癖症だと感じている方々は、そのことを念頭において、韓国に滞在する事をお勧めする。
- ・韓国でホストシスターなどが言っていた言葉をそのままいろいろな人に使うのは少し危険かもしれない。例えば、私はチンチャやチャルジャという言葉を実当やおやすみなさいという意味として現地で捉えてホストファミリーや親戚の方に使っていたけど、どちらもかなり親しい人にしか使わない言葉だったよう……。帰国してから調べて気づいて反省しました。一緒に行った子もそういう子がいたので聞いた言葉を使うのはいいと思うが、もし余裕があれば意味を調べたり、失礼ではないかを人に聞いた方がよい。

5. (1) 派遣期間 (5日間) はいかがでしたか。

適当である	10
多すぎる	0
少なすぎる	2

理由

■ 適当である

- ・5日間と一見短いように感じる時間ではあったが、現地特有のお店に行ったり、ホストファミリーとの仲を深めることが十分にできたと感じているから。
- ・自分が環境に慣れてきたのが3日目くらいだったので環境に慣れてから適応するには少し短いのかも思いました。しかし、気持ちの部分では5日で十分だったように思います。これより長いと気持ちが疲れてしまうと思うので、期間は適当だったと思います。
- ・5日間でたくさんのことを学び、これからの人生の一つになるたくさんの思い出ができたから。
- ・観光としてはもっとまわりたいところや食べたいものがあったのは事実だが、初めてのホームステイとしてはちょうど良かった。まだいたい、と聞かれるともっと韓国語を勉強してコミュニケーションを取れるようになってから来たいのでいったん帰りたいと答える。
- ・3泊ホームステイ、1泊ホテルがちょうど良かった。5日間で韓国のさまざまな所に行くことができ、ペアの韓国人達とも仲良くなれたから。
- ・夏休みの5日間は行く前まではちょうど良いと感じたが、現地に行ってみると少し短く感じた。だが、よくよく考えてみると夏休みの予定の中では適当だと思った。
- ・最初はホームステイに行くのはすごく緊張したけどやはり楽しい時間は一瞬でした。でも、やっぱりそのぐらいがいいのかと思いました。長すぎたらもっと韓国から帰りたくなくなるし、何よりホストファミリーとのお別れが辛くなってしまうので、5～6日くらいでいいと思います。
- ・5日目には、もう少し長くいたいと思った。ただ、いつもと違う環境(国も周りの人も)で5日間様々なことをし、疲れが溜まっていたので、これより多くなると、少し厳しいかもしれないと感じたから。
- ・5日間は短いかなと感じていましたが色々な場所に行くことができたのに加えて、5日のため部活に支障がでない程度の日数だったので適当だと感じました。
- ・せっかく慣れた頃にお別れになってしまうのが少し残念に思いましたが、自由行動の時間も多くてち

ようよかったのかなとも思いました。ロッテワールドにも行くことができ、充実した派遣期間だったと思います。

■少なすぎる

- ・韓国語が少し喋れたこともあり、ホームステイ先の家族とは出会って1時間しないうちに打ち解けることができ、多くの話をする事が出来た。その一方で他の韓国のホストファミリーの方たちとはロッテワールドやさよならパーティーなどで仲良くなったため、もう少しお話出来る時間があつたらいいなと思った。
- ・もっと韓国で行きたい場所があつたから。ペアの子ともっと一緒にいられたらさらに仲良くなる事ができたとおもうから

5. (2) 派遣時期（夏休み前半）はいかがでしたか。

適当である	9
適当でない	3

理由

■適当である

- ・7月中は部活があつたり、宿題があつたりと何かと忙しく、8月の後半になってしまうと定期テストの勉強をしなくてはならず、物理的に行くことができません。部活もテスト勉強もない夏休み前半での派遣時期が適当だと思います。
- ・夏休み後半になると各自、学校の課題などに取り組んだりする時間が必要になり、余裕が無くなると思うから。
- ・夏休み後半に学校の課題に集中できるから。
- ・後半にあると宿題を終わらせてなかったときに悲惨なことになるそうだから。日本に帰ってきてからも夏休み中だから、ホストファミリーとかとまた頻繁に連絡を取れるのも良かった。
- ・台風などに当たらず天気も良く、巡ったところではイベントなども行われていたから。
- ・自分の夏休みの予定的にも、そしてお盆とも被っていないくてちょうど良い時期だと思った。
- ・夏は日本と同じく暑く、暑さのために断念したものもあった。ただ、春は基本忙しく、冬は寒さに慣れないと言うのもあり、夏が最適だと思う。またこの時期は夏休みの中でも忙しくない時期だから。
- ・後半にすると夏休み明けの勉強に取り掛かるのも遅くなってしまうので夏休みの早い時期に派遣事業にいけるのは助かると思いました。
- ・前半にあることによって学業にもうちこむことができますし、家族との時間も取ることができるので前半に派遣期間があつてよかったと思います。

■適当でない

- ・8月の前半は、オープンキャンパスや学校の合宿、課外プログラムなど、様々な企画が設けられている時期のため、活動が制限されてしまった事が、少し気がかりであった。
- ・後半であつたら、前半に韓国語の勉強に取り組める時間が増えるし、夏休み前半のモチベーションにもなると思うから。

- ・夏休み前半は僕的には部活や宿題でとても忙しかったので、後半の方がいいなとは思いましたが、そこは人それぞれなので、変えたほうが良いとは思いません。

## 6. ホストファミリーと意思疎通ができましたか。

問題なく意思疎通できた	5
分からないこともあったが、だいたい意思疎通できた	7
どうしたらよいか分からず困ることが多かった	0

## 7. ホームステイ期間中、どこで、何をして過ごしましたか。

### ■ 1日目（木曜日夕方以降）

- ・ホストファミリーの家に訪れた後、家族みんなで、夕食として、ホストマザーとファザーが作ってくださったサムギョプサルやキムチチゲ、ワカメスープや焼きおでんなど様々な家庭料理をいただいた。その後、ペアの子と一緒に、私の希望であった、現地のスーパーマーケットへ訪れたり、オリーブヤングや、アイスクリーム屋さんなど江東区内を散策しながら回った。その後は、家に帰ったが、ペアの子の兵役中のお兄さんが、体調不良で倒れてしまったとのことで、ホストマザーとファザーは、夜間は不在であった。しかし、ペアの子が、体調面等、私を気遣ってくださり、安心して眠る事が出来た。
- ・家で夕ご飯をいただいた後、夜の街をホストシスターと歩きました。ホストシスターと学校に行ったり、公園に行ったりしました。ホストシスターの友だちと会って一緒に散歩しました。アイスを買っていただいて歩きながら食べました。
- ・ホームステイ先の家族とサムギョプサルを食べて江東区を探索し、オリーブヤングなどに行った。
- ・韓国の定食を食べに行きました。夜は、ホストシスターとスーパーにお母さんに頼まれたものを買に行きました。その後ドヨンの部屋でいろんな話をしました。
- ・区役所からカルビを食べに行った。日本でもあまり韓国料理を食べたことがなかったので不安だったが、どれも美味しく楽しかった。ホストシスターと街をぶらぶらしてプリクラを撮りに行ってからスターバックスにいて、いろいろなことを話しながら地下鉄で家に帰った。そのあと家で二人でハイキューを見た。
- ・家で夕飯を食べた後に、ホストファミリーとかき氷専門店に行った。
- ・江東区市役所を出た後に、JYPの事務所の前を通って、その隣のご飯屋さんでキンパやマンドゥなどを食べた。ホームステイ先のお家の近くのダイソーに行ったり、オリーブヤングに行ったり夜遅くまでお買い物をした。その後トッポギと一緒に作って食べた。そして寝る前に、5つほどのカードゲームやボードゲームをした。
- ・お母さんの作ってくれたプルコギを食べたあと、ホストブラザーとゲームしたり、OFFタイムを過ごしたあと、日本の2倍ほどの大きさのDAISO（100円均一）に行きました。
- ・車で帰宅後、家の近くのサムギョプサルの店で夕食。家への帰り道に糖葫蘆を食べた。車で南山に行き、ゴンドラで山の上まで上がった。南山タワーの下で写真を撮ったりした後、歩いて

山を下った。その後車で家に帰り、就寝。

- ・夜にコンビニへ行った後に一緒に家でホラー映画を見ました。チキンを頼んでくれていて夜の12時ごろで深夜に食べるのはとても新鮮でした。
- ・ホームステイ先で当日誕生日だったこともあり、お祝いをしていただきました。ずっと楽しみにしていたわかめスープやケーキまで用意していただいてサプライズでした。お誕生日ソングまで歌ってもらえて幸せでした。お母さんのお友達もお家に来てお話しして過ごしました。

## ■ 2日目（金曜日夕方以降）

- ・ホームステイ先の両親が不在のため、プログラムの後は、滞在先と近い他のペアの方の家で夕食をいただいた。手作りのキムチ、チヂミや、出前のヤンニョムチキンなど、ドラマで見るような韓国の食事を体験することができた。その後は滞在先に帰った。帰宅すると、ホストマザーが戻っており、間食にホストマザーお勧めのアイスを食べた。そして、両親の不在のためできていなかった日本のお土産を渡した。ペアの子やホストマザーは、私の日本のお土産や、自己紹介を兼ねた手作りのアルバムに常に喜んでくださっていた。韓国のお菓子を食べながら、くつろいで過ごすことができ、非常に充実した時間だったと感じている。
- ・ホストファミリーにコリアンバーベキューのお店へ連れて行っていただきました。たくさんお肉が食べられて嬉しかったです。日本では食べる機会が少ない料理や調味料もたくさん食べることができました。ご飯をいただいた後、ホストシスターと交流団の一人とそのホストシスターとカラオケに行きました。店員さんがたくさん延長してくれて良かったです。
- ・夜ご飯はトッポギをテイクアウトして食べました。夜8時からケーブルカーで南山タワーを見に行きました。帰ってきたのは24時くらいでしたが、夜遅くに出かけることは初めてだったのでとても良かったです。
- ・その日に一緒に行動していた別のペアと一緒にカラオケに行った。カラオケに行くまでにバスに乗ったが、2ステーション降り忘れて少し歩いた。カラオケからプリクラ撮って、帰ってまた家でアニメ（コタローは一人暮らし）を見た。
- ・ハンバーガーが好きなので、韓国でも食べたいとリクエストしていたハンバーガーを食べた後、ホストファミリー達と韓国のおやつを食べながらゲームしたり、話をしたりした。
- ・ホームステイ先のお家のアパートのコミュニティセンターにある、卓球場で卓球ロボットと普通の卓球を楽しんだ。その後アイスを買って食べながら、韓国のカラオケに行って、夜の10時くらいにチキンを食べに行った。
- ・東国屋というお店に行き本格的なジャージャー麺を食べた後大きいショッピングモールに行った。
- ・地下鉄で帰宅後、母が作ったキンパと、辛ラーメンを食べた。ロッテシネマで「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」の韓国語吹き替え版を見た。映画を見ながら食べたポップコーンがすごく多かった。その後車で家に帰る途中、ソルビン(かき氷のようなもの)を注文し家で食べた。その後就寝。
- ・2日目は疲れてすぐに寝てしまいましたがホストファミリーのお母さんがお腹がすいたら食べられるものもあるから言ってねと言ってくれました。
- ・私の体調があまり良くなかったので、ホームステイ先に団員の違うペアのことお家に戻ってチキンを食べました。映画を見ながらゆっくり過ごしました。そのあとは明日あるロッテワールド

ドのアトラクションを調べてお話ししながら過ごしました。

### ■ 3日目（土曜日夕方以降）

- ロッテワールドで夕食を食べ、民族博物館へ移動した。しばらく韓国の歴史的な書物や、文字の歴史や生活様式を模型とペアの子の説明を通して学ぶことができた。帰りは、実際に地下鉄を使って移動した。帰り道、私の希望であった本屋にも訪れることができた。そこでは、ペアの子の意見も聞きながら、竹島問題の本や、独立戦争について書かれた本など、目的の本を購入することができた。家に帰ると、ホストマザーと韓国の俳優について一緒にお話をしたり、ペアの子のお勧めの YouTuber やアイドルの動画を一緒に見たり、私のお勧めの日本のアニメを紹介したりして過ごした。
- ロッテワールドで疲れてしまったので出かけることはしませんでした。家でお母様とお父様と私の家族や日本のことを話しました。翻訳機を使いながらでしたが、話を振ることが苦手な私にたくさん話を振ってくれて、聞いてくださって本当にありがたかったです。
- ロッテワールドに夜遅くまで居たので帰ってからは、夜食を軽く食べ、その後ホストマザーの方と一緒に夜中の3時までひたすらお話した。
- 夜遅くまでロッテワールドにいたので、他には何もしていません。
- ロッテワールドからお母さんに車で迎えに来てもらってそれから家に近いホストシスターのおばあちゃんの家に行った。ホストマザーの兄弟夫婦と両親がいて、お土産もいただいた。そのテレビで私の知っている韓国俳優が出てきて話が盛り上がった。
- 韓国の焼肉屋さんに行った後アイスを食べて、ライトアップされた漢江を見に行った。
- ホームステイのお家の近くのスーパーに行って韓国のお菓子のお土産を買って、その後にラーメンを食べた。
- ホストブラザー達が用事があっていなかったなので、お父さんお母さんが色々計画してくれて、夜景を見に行ったり、噴水ショーをみに行きました。
- 車で帰宅し、近くの市場でブドウとマクワウリを買った。家で餃子を作り、蒸し餃子と水餃子にして食べた。家の屋上で、買ってきた果物を食べた。家でボードゲームを少しやりつつ、翌日の予定決めをした。車で近くのスーパーに行き、お土産を買った。帰宅後、就寝。
- この日もロッテワールドに10時ごろまでいたため家に着くのが12時前で2日目と同じくすぐ疲れて寝てしまったのですが部屋に色んな韓国のお菓子がおいてありました。
- 少し長めにロッテワールドに滞在をして、書店に寄り道をしてから帰宅しました。地下鉄とバスを使って帰ったのですが、地下鉄に乗るのが初めてだったので新鮮でした。お家に帰ってからは、お母さんが作ってくれたラーメンと買っておいてくれてヨーグルトを食べました。お風呂に入ってから家族全員でお話ししたり、韓国伝統のゲームをしたりしました。日本人には発音が難しい「공룡」や韓国人には難しい「ひとつずつ」という単語の話題で盛り上がって結局2時くらいに寝ました笑

### ■ 4日目（日曜日朝～夕方まで）

- 前日は非常に遅くまで起きていたため、11時に起床した。起きてすぐ、ホストマザーが入れる具材など全て用意してくださり、私がかかるとかやってみたかったキンパ作りを、体験させてい

- いただいた。ホストマザーに1から作り方やコツを教わりながら、自分オリジナルのキンパを作ることができ、非常に貴重な体験をさせていただいた。その後は、サプライズで、私の誕生日を祝っていただいた。韓国語でHappy Birthday を歌いながら、ろうそくのついたバースデーケーキをいただいたのが非常に印象深い思い出である。その後は、ランチとして、私の作ったキンパや、縁起の良いわかめスープなど手作りの料理を振る舞っていただいた。ランチを食べた後は、ハンガンの川辺を散歩して、近くにあったコンビニでラーメンを買い、昼食としていただいた。その後は、トンイン市場に訪れた。お魚屋さんや香辛料屋さん、服屋さんのようなお店が立ち並ぶローカル市場であった。ここでは、私の希望であったおでんや、巨大なトッポギなどを市場のお店の中に入って食べた。
- ・お母様行きつけのカフェに連れて行っていただいてクリームがたくさんあったパンをいただきました。雰囲気がとてもよいカフェで、パンもとても美味しかったです。その後ホストシスターとショッピングモールでお土産と服を買いました。たくさんバラエティショップがあって楽しかったです。
  - ・ホストシスターの学校の友達が遊びに来てくれて、一緒にショッピングした。その後早めにlake hotel に行って駐車し、近くでサムギョプサルを食べ、その後ロッテモールでまたショッピングした。
  - ・明洞をまわった。かき氷を食べた。有名な餃子を食べた。生きたタコ「サンナクチ」を食べた。
  - ・明洞に行っているいろいろなことをした。お土産を買ったり、かき氷を食べたり、カルグクスを食べたりした。家に帰ってのんびりしてからホテルに向かった。
  - ・朝8時に起きてロッテタワーに向かった。その後ビビンバを食べてカフェに向かい、博物館に行った。
  - ・最初に東大門に行って、韓国の伝統的なお土産などが売っているショップを見に行った。その後、服やアクセサリが沢山入っているショッピングモールでお土産を買った。その次に明洞に行って、地下鉄の中にある洋服や靴、鞆などが売っているお店が沢山並んでいるところで、洋服を買った。その後、食べ歩きや、路上店で洋服や鞆を買ったりした。
  - ・朝食にサンドイッチ作りをして、その後戦艦をみに行き、昔の韓国の街を再現したところを歩き回り、その後トッポギを食べ、一区切りしたら HIKRground に行き、SEOUL SKY に登りました。
  - ・朝、カレーライスを食べた。景福宮まで父に車で送ってもらった。音声ガイドを頼りに見て回った。暑かったので途中でカフェに行き、シッケを飲んだ。世宗大王銅像の前で写真を撮り、地下の小さな博物館のようなどころを見た。教保文庫 光化門店という韓国最大の本屋に行った。日本のマンガコーナーが大きかったのが印象的だった。崇礼門を見て写真を撮った。昼ごはんは太刀魚の料理や、プルコギを食べた。南大門市場に行ったが、日曜日ということもあり、飲食店などは閉まっていた服などを売っている店しか空いていなかった。その後父の迎えの車が来てカフェでスイカの飲み物を飲んだ。家に帰り、アイスを食べ、ユンノリやオセロなどのボードゲームをした。コナンのアニメをテレビで見た後、ホテルに向かった。
  - ・ロッテワールドで一緒に行動し4人で東大門に行きました。コスメが安く売られているオリーブヤングに連れて行ってもらったり服を見て買ったりしていました。
  - ・まずは朝ごはんはヨーグルトとフレンチトーストを食べました。ペアの子のお友達と一緒にお

母さんが運転してくれた車でスタバを飲みながら新村に向かいました。そこでショッピングをしてから、また車に乗ってホテル近くのサムギョプサルを食べに行きました。ほんとに美味しかったです。その後はロッテタワーに入っているスーパーでお買い物をしてお土産を買いました。最後はロッテタワーの中を散策しました。

## 8. ホームステイ期間中、特に楽しかったこと、困ったこと、失敗したことをそれぞれ教えてください。

### ■楽しかったこと

- ・ホストマザーやホストシスターが、非常に日本の曲が好きで、ドライブ中はよく、日本の曲を流しながらみんなで合唱したことがとても印象的である。また、ホストマザーやシスターのよく利用している地元のお店に連れてっていただいたこと。そして、ペアの子と、お互いの学校生活や好きなアイドルや曲について一緒に話したこと。
- ・夜に出歩いて日本のように補導されないのが、夜に出歩けることが楽しかったですし、嬉しかったです。また、ホストファミリーとお話することで不安もなくなり、とても楽しかったです。
- ・さよならパーティーの最後に他のホストファミリーの子たちと仲良くなれたこと。またパーティー終了後にひとつの部屋に大人数で集まって写真を撮ったり思い出話したこと。
- ・全て。特に、ロッテワールド。
- ・ロッテワールドが特に楽しかったなと思います。三日目でホストシスターとも一気に仲良くなれた気がしました。また、他の団員とそのホストシスターと一緒に行動し始めてから、お互いに同じ言語で喋れる相手のできたので会話もはずむようになり、関係がグッと近づきました。
- ・自分が心の中で準備して覚悟を決めて韓国語を口に出したときに、みんなが分かってくれて「すごい！」みたいな反応をしてくれたこと。動詞の活用を正しくして、声をかけられたこと。ホストファミリーが何を言っているのか理解出来たこと。
- ・ロッテワールドでペアの子だけでなく他のメンバーも一緒に回れたこと。みんなで制服を着れたこと。
- ・ロッテワールドに行ったこと。
- ・ホストファミリーと過ごしたり、団員やそのペアの子と過ごしたこと。
- ・4日目の景福宮は、京都に行ったことがあったので、なんとなく相違点が見つけれられてとても楽しかった。篆刻作りはほぼ初めてだったが、面白かったしお土産にもなった。
- ・ロッテワールドはディズニーのように長く並ぶかなと思っていましたがとてもスムーズで長くても30分ほどだったので驚きました。ホストファミリーも色んな韓国料理を振る舞ってくれつつも私が辛いのに慣れていないのを気遣い辛くない料理を作ってくれていました。
- ・ホームステイ先の家族の人達と韓国語でお話しできたこと！！交流できた様な気がしてすごく嬉しかったです。

### ■困ったこと

- ・私は韓国語が、簡単な日常会話の単語程度しかできなかったため、韓国語しかしゃべれない。ホストマザーやファザーと複雑な会話が直接できなかったこと。
- ・親と離れて海外に行くことが初めてだったので知らないことだらけでホストシスターに教えてもらってばかりでした。私が無知だったことでたくさん迷惑をかけたと思います。
- ・tmoneyを買わなかったので、バス代は全部ホストシスターが払ってくれることになったこと。家で代金を払ったがそのやりとりが面倒であったため、到着してからtmoney購入するべきだったと思った。
- ・ペアの子に韓国語で話して、その言葉が通じなかったこと。

- ・お風呂が日本と違って大変でした。誰かがお風呂に入っているとトイレに行けないですし、お風呂に入った後に床がびしょびしょになるのが個人的に嫌でした。
- ・ロッテワールドで絶叫が得意かどうかを関係なくチーム組をしたために、ひとりだけ別行動になってしまった。韓国の子同士で話して盛り上がっていて、置いて行かれて寂しい気持ちになった。
- ・シャワーの出し方がわからなかったが2日目に分かって使えました。
- ・もう少し英語や韓国語を勉強して、話を沢山出来れば良かった。
- ・ホストブラザーとお別れしなくてはいけないことを考えすぎて4日目の夜に眠れなかったこと。
- ・多少言語で困ったが、音声認識の翻訳ツールがあるので、この点はあまり困らなかった。多分うちだけなのですが、水道の故障でお湯が出なかったのも、シャワーが寒かったです。後、家のトイレが不調で、前日使えたトイレが翌朝使ったら水が流れず、焦りました。ロッテワールドは、絶叫系が厳しい人には乗れるアトラクションが少なかったです。
- ・相当韓国語を学んでいないとやはり会話は大変なので翻訳アプリはある程度の韓国語ができたとしても入れておいた方がいいのとモバイルバッテリーは絶対に持っておいた方がいいと感じました。
- ・トイレです！！思った以上にトイレットペーパーを流せないところが多くて戸惑ったと思います。

#### ■失敗したこと

- ・お風呂に入る際に、バスタオルのストックが消えていることに気づかずお風呂に入ってしまった。
- ・言語について失敗したと思っています。まずは英語です。今までの英語への積み重ねが甘かったせいでシスターと会話が成り立たず、迷惑をかけてしまうことがありました。次に韓国語についてです。周りの方にサポートをしていただきながら勉強はしていたつもりでした。しかし、実際使うとなるとなかなか使うことができず、結局ほとんど使えずに終わってしまいました。
- ・変換プラグを持っていかなかったこと。他の団員が持っていたので一緒に使うことが出来たが、同時に充電できないため、しっかり持っていくべきだと思った。
- ・ホームステイ先のご両親が日本語で話してくれたけど、私も韓国語でもっと話をしたかった。
- ・特にありませんが、本当は韓国語の単語はわかっているのに、自信がなくて声に出せなくてずっと翻訳機で話していたことです。三日目あたりから、自分で韓国語を話すようになってからホストシスターも喜んでいましたし、お互い自分の言語を教え合うようになりました。
- ・語彙が足りないから当たり前だが、日本語でなにも考えずにというような会話中のリアクションなどが言えなくて悲しかった。あとリスニングをもう少しやってくれば良かった。
- ・もう少し韓国語を勉強しとけば良かったなと思いました。
- ・特に失敗したと思ったことはなかった。少しくましくないことがあっても経験になるだけで失敗と言える大きなミスはなかった。
- ・ペアの子とはかなり話せましたがホストファミリーのお母さんやお父さんとももっと話してみるべきだったかなと思いました。
- ・特にありませんでした。（3名）

## 9. 韓国の一般家庭に宿泊してみて、感じたことを教えてください。

- ・韓国人は、トイレやお風呂などの水回りにはさほど気を配らないのだと感じた。例えば、トイレとお風呂が分かれている家庭だった。しかし、シャワーの水を遮るものが何もなく、一面床が濡れてしまっている、気にしないところなどである。そして、日本では珍しい、マンションばかりの光景は、とても新鮮であった。
- ・日本とは違い、一軒家よりマンションが多いことに驚きました。また、私自身、友人などの身内以外の家庭に宿泊した経験がなく、そのような場所へ行くことの経験が乏しかったため、人の家で生活していることに対して気を張っていました。しかし、ホストファミリーのシスター、お母様、お父様、皆様がとても緊張している私を温かく迎え入れてくださり、ホストファミリーのお宅にいる間含め、ファミリーと過ごす時間をとても安心して過ごすことができました。家の使い方を細かく教えてくださったので気になることがありませんでした。更に、家のお手洗いが水洗式だったので日本と同じようにお手洗いを使えて使い方について気をつけることがなくてよかったです。
- ・シャワーとトイレが同じ部屋にあるから少し違和感があった。私は3日目のロッテワールドの帰り、乗り物酔いしてしまい、ホームステイの家族みんなでお店に行く予定だったが、中止にしてしまっただけで申し訳なかった。でも、家族みんなが心配してくれて、お母さんが、私の髪を乾かして、ハグをしてくれた。その時に、他の国の人とでも本当に仲良くなれることを実感し感動した。
- ・私の担当の家庭はお母さんが日本語が得意だったので、通訳をしてくださったのでなにも不自由なく生活できました。妹ちゃんもとても懐いてくれてプレゼントをくれたり、寝る時も部屋に来ておやすみ、と日本語で言ってくれたりしました、お父さんはお仕事であまり話す機会はありませんでしたが、とても優しい方でほんとうにあのおうちに宿泊できてよかったなと思っています。今年の冬に日本に来るそうで、私の家にも来ていただく予定です。
- ・とても気を遣ってくれて、変圧器とかタオルを用意してくれて本当にありがたかった。他にも辛い食べものを少なめにしてくれたり、私が水を外に行くときに持って行くことを知って、次の日からペットボトルを用意してくれたりして、とても嬉しかった。自分がまたホームステイするとき、ホームステイを受け入れるときにやるべきことが分かった。
- ・本棚に大量の教科書や問題集があり勉強に対する熱量を感じた。夜に寝る時間が23時や24時と遅かった。ご飯の主食はお肉でした。
- ・ホームステイ先のお家は高層マンションでとても広く、駅やコンビニ、スーパーがお家の目の前で、公園や池、コミュニティ施設まであり、ホテルかと思うぐらい立地や施設環境も良かった。また、家族がとても優しく接してくれて本当にありがたかった。日本と違う点として、全体的に夜型思考の国らしく、夜遅くまで遊ぶのが当たり前で、22時くらいでも小学生ぐらいの子供同士がショッピングをしていた。私以外の家族は、お風呂は朝入ることが多く、寝るのも家族全員遅かった。
- ・アパートやマンションに住んでいる家庭が多く、お風呂は湯船にはつからず、食事量が予想よりはるかに多かったです。
- ・日本で民泊をした時と同じように、とても温かく迎えてくれた。フレンドリーで寛容な方々だったので、すぐに仲良く慣れた。言語で多少壁があっても楽しいことや発見などが多すぎて全く気にならなかった。
- ・日本とは違いマンションだらけで一軒家を全く見なかったのに驚きました。味噌汁のようなものもスプーンで飲んでいてお椀は持たないことを知りました。

- ・私のホームステイの家族はすごく優しくきていた文化よりもずっとゆるくてしたいことを全部させてくれたご家庭でした。料理も美味しかったですし、困ったことは特になかったのかなと思いました。

10. 今回のホームステイは、あなたにとっていい経験になりましたか。

はい	12
いいえ	0

理由

- ・今回のホームステイを通して、自分の持つ情報が、いかに偏見や憶測で構成されているのか理解するきっかけになった。実際に、ホームステイ先の自宅で過ごすことで、直接韓国の習慣や生活様式など体験することができ、より韓国文化を深く知る上で良い経験となったから。
- ・ただ韓国に行っただけでは感じられなかったであろう韓国の方の優しさを身を持って体験できたと思います。初めての海外で緊張している私を本当に温かく迎え入れてくださいました。私が辛いものが苦手なのを知って、できるだけ私が辛いものを食べないようによけてくださったり、どこかへ行くときや家へ帰るときに必ず車で送り迎えをしてくださいました。私の食べたいものや行きたい場所、やりたいことをたくさん聞いてくださって、安心して自分の希望を伝えることができましたし、いろいろなことを体験させてくださいました。私が韓国語をあまりできないのでいちいち翻訳アプリを通じてしか会話をするのができなかつたのですが、打ち込んでいる間気長に待ってくださって安心して自分の気持ちを伝えることができました。また、ホストシスターの部屋を貸してくださり私が自分の時間が持てるようにしてくださったことが本当にありがたかったです。
- ・ホームステイという経験がなかったので、初めて自立した生活を送ることが出来た。また現地の方と韓国語で会話する貴重な経験にもなったから。
- ・本当の家族のように優しくしてくれて、韓国にもう一つの家族と言える場所ができたから。
- ・韓国の人とあんなにいろいろな経験を一緒にすることはなかなかないから。またペアの子ともとても仲良くなっていまでもDMする仲になれたのはとてもよかったなと思っています。
- ・海外に一人で行くのは初めてだったので寂しい気持ちになったりもしたが、その分ホストファミリーと会話できたときの嬉しさが大きかった。ホストファミリーにとっても大切にしてもらったから、またホームステイするとき、受け入れるときの目標ができた。英語圏でないところに自分から留学に行くことは私の中では考えていなかったなのでこの機会に留学できて良い経験になった。
- ・今後海外に留学することになったらこの経験を活かせると思ったから。言葉や国が違って仲良くなれたり、街の人達もとても優しく、あまり壁を感じなかった。韓国のことをもっと知りたいと思うようになった。
- ・英語も韓国語も最初はほとんど喋れなくても、ホームステイをする中で伝えたいことが伝わるようになっていくのが凄く嬉しかった。小さい頃から海外での生活に興味や関心があったから、このような貴重な経験をさせていただいて、第二の家族のような存在が出来た。ありがとうございました！

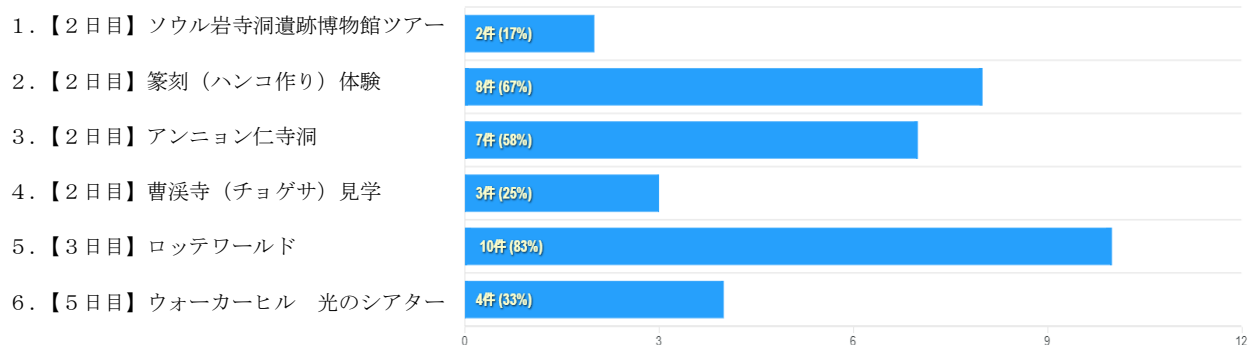
- ・日本とは全然違うところが多かったですが、どちらにもいいところがあり、そこに首を突っ込むのではなく、お互いの文化を自分の中に入れておいて、大切にすればいいなと思えました。
- ・初の海外渡航が、多くの大変なことを市の方々にサポートしてもらったので、ただ楽しむことができたから。
- ・他人が行った韓国の動画を見るのと実際に自分で見たり触れたりして感じるのとは大きな差があると感じました。海外へ行くのは久しぶりなことに加え、ホストファミリーの家で泊まるというのは初めての体験だったので実感が湧きませんでした。日本での当たり前は決して当たり前とは限らないと感じることができました。
- ・初めての経験で見えるものや体験すること全部が新鮮ですごく楽しかったです。韓国語を勉強していたこともあって、会話するのも初めは慣れずにしんどかったですが、だんだんと慣れて来て話が弾んだのですごく嬉しかったです。家庭料理を実際に食べることができたのもよかったですし、普通に韓国に行っていたらできないことだと思うのでいい経験でした。

**11. 今後もホストファミリーと交流を継続していきたいと思いませんか。継続する場合、どのような交流をしたいと思いますか。**

- ・ペアの子以外の人とも会話や行動を共にし、多くの人と関わる機会が作れたら良いのではないかと考えている。
- ・これからも交流を継続していきたいです。ホストファミリーと連絡先を交換したので、これからもコミュニケーションを取りたいです。ホストファミリーが日本に来る際には全力でサポートしたいですし、おすすめの場所などを紹介したいです。また、韓国語と英語の勉強を頑張って、またお会いできるときに今よりもスムーズに会話ができるようになりたいです。
- ・はい。帰国してからも連絡はとっているがそれが一時的なものにならないよう定期的にインスタやLINEなどで話せば良い。
- ・武蔵野市を案内する。日本の文化を体験してもらおう（浴衣など）。日本語を教える。
- ・上にも書きましたが、ホストファミリーが冬に日本に来るそうなので、一緒にディズニーランドに行こうねという約束をしています。また、定期的にテレビ電話をしようねという話もしています。ホストシスターは来年の派遣で日本に来ることも考えているそうです。また私も都合がつけばホストファミリーをやってみたいねと親と話しています。
- ・SNSを通じて自分の好きなアニメの話とか音楽の話とかをしたい。また日本にも来てほしいし、韓国にも行きたい。
- ・東京に旅行などできた際に、おすすめの場所などに連れて行ってあげたい。グリーティングカードを送りたい。SNSで時々やり取りしたい。
- ・LINEを繋げたので、帰国後もすでに連絡しており、これからも頻繁に連絡を取り合う仲でありたい。また、パートナーの子が日本に来る機会があれば日本の紹介や武蔵野市の案内をして、ディズニーなどにも一緒に行きたいし、私が韓国に行く機会があれば、是非また会いたい。
- ・“もち”の“ろん”です。一応携帯で繋がれているし、また韓国に家族で来た時はまた出迎えられるなどと言ってくれたので、その時はぜひ、お世話になりたいです。また、逆に日本に来た時はこっちが迎えてあげたいです。
- ・思います。SNSでのやりとりのほか、お互いの国を訪れる機会があれば、再会したい。

- ・今回のような自由時間は韓国のことを知れるのに加えさらにペアの子との仲が深まるので次の派遣事業でも自由時間はとても良いと思います。
- ・これからも交流を続けていきたいです♪SNSを通じての交流もそうですし、ホストファミリーが日本に来る時には案内してあげたいなと思います。

## 12. ホームステイ以外で、楽しかったプログラムを教えてください（複数回答可）



## 13. 韓国でどのくらいおこづかいを使いましたか。また何に使いましたか。

使った金額（平均）	18,000 円
両替した金額（平均）	24,000 円

### 主な使いみち

- ・日本へのお土産（スーパーで買ったお菓子やラーメン、韓国のシールなど）、交通費（自宅から江東区役所までの行き帰り）
- ・自分へのお土産
- ・子どもたちで出かけた時の飲食代、プリクラ、ロッテワールドで買ったカチューシャ代など
- ・気になった韓国のお菓子やカップラーメン
- ・交通費、洋服、鞆
- ・ロッテワールドでの食事、自由行動でのショッピング

## 14. 派遣前と現在で、韓国に対するイメージは変わりましたか。変わった場合、どのように変わりましたか。

- ・韓国人の方々は、少しクールな印象で話しかけづらいのではないかと、また、打ち解けられないのではないかと、不安に感じていました。しかし、実際に様々な方と接する上で、韓国人のとても優しく、気さくな行動に、韓国は、自分の考えていたよりも、ずっとあたたかい国なんだと感じました。
- ・韓国に悪いイメージは持っていなかったのですが、特に変化はありませんでした。ただ、街中のイメージは日本と似ているというイメージを持っていたので、少しその部分への驚きがありました。例えば、一軒家が少なく、ビルが集中しているということや、自販機があまりないということ、

夜でも道に人が多いということなどです。また、日本と比べて寛大な部分があるのだと感じました。例えば、夜に子どもだけで出歩いても怒られなかったり、カラオケのサービスがよかったりなどです。しかし、日本よりも上下関係に厳しかったりなど違いも感じました。

- ・あまり変わらなかった。
- ・少しだけ治安が悪いイメージだったが、韓国の方はすごく親切で自分の意思がしっかりあると思った。
- ・変わりました。良い意味で韓国の方は自我が強いイメージがありましたが、ホストシスターは常に私に気を遣ってくれて疲れてない？や何かしたいことはある？困ってたらいつでも話してねなどと優しい言葉をかけてくれました。個人差はあるかもしれませんが韓国人の方が日本の方より親切だなと感じました。
- ・変わった。もともとはSNSなどを見ていて周りの人に冷たくて、特に儒教の考えが強いからしっかりしないと怒られるのかな、と考えていたところもあったが、実際はあまり日本と変わらないし、儒教も間違っていたら、そのまま気にしないでくれるか、優しく教えてくれた。いい意味で日本とあまり変わらなかった。どちらかというとも日本よりもフレンドリーで欧米のフランクな感じの人もいた。あと遊園地のキャストさんが日本と比較して少し冷たいな、と最初は感じたが、困ったときに声をかけてみたら本当に真摯に対応してくれた。どんな人にもニコニコ話す日本のキャストさんのすごさも感じたが、そのように丁寧に対応してくれて嬉しかった。
- ・街の人達も写真をお願いしたら撮ってくれるし、お店の人もおまけをくれたりして、とても優しくかったです。話しかけにくいかなと思っていましたが、こちらから話しかけると優しく対応してくれたので、イメージが変わりました。同じアジアなので日本と似てるのかと思いましたが、ちょこちょこ違うことがあり、やはり国が違うと生活や文化も違うことを感じました。
- ・朝からブルコギが出たり、5日目のホテルの朝食も日本の一般的な家庭での食事より量が多かった。そして、思った以上に夜型志向の国だった。学歴社会でもものすごく勉強をしているイメージだったが、中学生は普通の地元の学校に行く人が多いと聞いて意外だった。
- ・こんな言い方はあまり良くないのですが、韓国の方に対するあまり良い報道がされてないニュースを耳にした事がたまにあります。実際その現地に行ってみたら全然そんなことなく、僕が関わった韓国の方は皆優しく、親切な方でした。なので、印象がとても良くなりました。
- ・あまり変わっていない。
- ・ソウルに人が多く、どこでも人がたくさん集まっているのかなと思いましたが東大門に行った時は人が全然いなかったのに驚きました。日本と同じで場所によって人がたくさんいるかあまりいないかは分かれるんだなと知れました。また、ずっと辛いものばかり食べているのかなと思いきやどこも辛いメニューばかりあるというほどでもなく辛い味付けの料理も多いことがわかりました。
- ・あまり変わってはいませんが、すごく優しい人ばかりだなと思いました。あとは、せっかちかもしれないです笑

#### 15. 韓国での滞在中、文化の違いや考え方の違いを感じることはありましたか。それはどんな体験でしたか。

- ・みんなでプリクラを撮った際に、韓国人の子たちがプリクラの仕上がりが満足いくものではなかったため、直接、プリクラのお店の方に抗議していたこと。日本では、お店側との争いを避けるよう

な傾向にあるが、韓国人は、自分の不満に思った事はしっかりと相手に伝えていることから、韓国人の周りに流されるのではなく、自分の意思を強く持ち、相手に伝えていることが、日本と違うと感じた。

- ・まずは交通についてです。車のナンバープレートの書き方が日本とは異なる、歩行者信号にカウントダウンがある、車用の信号は2色、4色のものなどがある、研修でも扱いましたが、車は右側通行ということなどです。次にお店についてです。飲食店にはロボットがいて、そのロボットにお皿を下げてもらえることに違いを感じました。日本には注文された料理を運ぶロボットはファミリーレストランを中心に浸透してきていますが、お皿を下げるロボットを私は見たことが無かったので、驚きました。他にも飲食店での日本との違いや、買い物をする際の日本との違いを感じました。買い物をする際に違いを感じたのはプラスワンの文化です。日本ではあまり目にすることがないので、違いを感じました。
- ・トイレとシャワーが同じ部屋にあること。またトイレットペーパーが流せない場合が多いこと。
- ・箸やスプーンが金属だったこと。一つの皿のものをみんなでシェアして食べた。オンニ（お姉さん）とよく呼ばれて、年上の人への配慮がすごく丁寧だと思った。韓国人は芯がしっかりあって、まっすぐに自分の気持ちを伝えてくれる。
- ・お風呂とトイレが分かれていない。夜遅くまで子供が出かけている。朝お風呂に入る。子供でも定期的に皮膚科に行く。
- ・基本的にはなかった。想像よりも日本に近かった。だがバスや電車は全部カードになっていたり、お店で「現金で」というと対応はしてくれたが、すこしばかりした顔をされたりしたところに技術の普及率の差を感じた。
- ・食器はや箸は鉄製で食器は持たずに食べる。焼肉やレストランに行ったとき、お水などはセルフサービスだった。
- ・朝からプルコギが出たりと日本の一般的な家庭での食事ではあまり考えられないメニューだった。そして、思った以上に国全体が夜型思考だった。食べ物もそんなに辛いものばかりではなかった。食事についても日本と違い、残すことにそこまで罪悪感がない様子だった。
- ・食事マナーや、それに対する意識、それに普段の生活習慣などなど。
- ・食文化の違いは韓国料理を食べたことで感じた。歴史の違いなどは感じたが、その他文化や考えの差異は感じなかった。
- ・韓国は日本よりもラフな格好をしている人が多いと思いました。またバイキングの時にチキンがあったので韓国では定番の食べ物なのかなと感じました。
- ・食文化では1番感じたと思いました。ご飯を残してもあまり何も言われず、箸の形も違って少しずつ違う部分があったのかなと思いました。

#### 16. 今回の派遣の経験を、今後どのように活かしていきたいですか。

- ・自分がまた韓国に行く際に、ペアの子や両親にあって、ぜひ、私の親も一緒に会うことができたらと思っている。自分が行くのはもちろんだが、反対に、ホストファミリーが、韓国から日本に訪れた際に私の地元を、紹介し、相手も私のように、日本の文化に触れ、楽しんでいただけたら良いと考えている。
- ・今回の派遣事業を通して、海外に行くこと、文化などが違う人と交流するということを経験できました。自分の意思を伝えることがどれだけ大切なことなのかに気がつくことができました。そし

て、自分の意思が通じなければジェスチャーや翻訳機器を活用して伝えようとする努力をすることも大切なのだと思いました。これから留学や自分とは違う文化に触れたり、考えたりする機会があると思います。なので、今回の経験で視野が広がったことを活かして更に自分とは違うことやものに触れることへ積極的に考えていきたいです。また、知らない言語を学ぶ楽しさに気がついたので、他の言語を学ぶということへも積極的に取り組んでいけたらいいなと思います。更に、人と協力する大切さに気がつきました。なので、これからの生活で協力が求められる機会があれば、積極的に協力したいです。

- ・次に韓国に行った時に、韓国語でもっとコミュニケーションをとれるよう勉強に励みたい。
- ・今回、他国に行ってみて、それぞれの価値観を持った人がいることを学んだから、広い視野でもの事を考え、自分の意見をしっかり持って、世界の色々な考え方の人と同じところも違うところも分かち合いたい。何事にも積極的に一生懸命チャレンジしたい。
- ・今回の派遣を通して、自分の行動力、挑戦する勇氣、適応スキルが身についたなと感じています。今回身につけたことを活かしてこれからもたくさんの方に挑戦し、経験を増やしていけたら良いなと思っています。また、もっと意思疎通したいという思いが強まったので言語の勉強を頑張りたいとおもっています。
- ・現代はSNSで自由に、グローバルに、人々と関われる、という。しかしSNSをみていると、実際、外国に行ってその国の人と関わったことがなくて、むやみやたらに他国の文化や人々を批判している人がいると思う。多分、その国の歴史上の出来事やある少数の人物が行った良くないことを、さも現代のその国の全ての人が行うこと、と捉えて、「それは良くない、つまりその国の人みんなだめ」と意見しているのだろう。韓国もまた例外ではなく、韓国の文化を受け入れようとせず、歴史上のことを表に出してこれだから韓国人は、とつぶやく人がいる。今回までは、自分が実際韓国に行ったことがなかったから「それはちがう」とは言えなかった。だが、今回韓国に行って一般家庭にホームステイをして、その意見が正しくないという証明できるようになった。もちろんこれまた「全て」の韓国の人々が素晴らしいというのは不確定だが、少なくとも全ての人々が悪い人だ、という人に対しては否定できるようになった。SNSをみて思ったもやっとした気持ちを解消できるようになった。さらに自分が訪れることでそのような“もやっど”を解消できると学んだからまた様々な国に行きたい。
- ・学校のお友達に韓国の良さを伝えたり、韓国についてニュースなどを見て、これからも気にしていきたい。また海外に留学したいと思っているので、コミュニケーションの取り方や事前勉強の大切さ、語学はできる方がいいことがわかったので、留学する時は活かしていきたい。
- ・今回のホームステイ先で家族4人全員英語が喋れていたこともあり、自分自身の語学に対する考えが変わった。英語が喋れたら、もっと自分の世界に対する視野が広がると思うからこの経験を将来にも活かしていきたい。
- ・また、このような海外に行く機会が来年に学校であるのでその時はまたその国の文化も自分の中にとどめながら、もっと色々な視点で世界をみたい。
- ・いつかホストファミリーとまたどこかで会いたい。
- ・また韓国へ行く時や他文化についての話題が学校で出た時には経験談としていろんな場面に生かしたいです。
- ・言語的な部分でもこれからも勉強していかなければいけないなとも感じましたし、人と母国語ではない言語で話すことの楽しさも感じる事ができたので役にたつと思います。文化の違う国に飛び

込むことも初めてで挑戦することもなかなかしてこなかったわたしにはこれからの受験にも役立ってくると思います。

#### 17. 今後の派遣事業の参加者に向けてメッセージをお願いします！

- ・不安なことも多いと思いますが、韓国語のできるできないにかかわらず、今自分しか得られない学びがきっとあると思います。是非自信を持って、様々なことに挑戦してみてください。
- ・もし、この事業に少しでも興味を持ったなら、挑戦してみたいです。私はこの事業に参加したことで自分を変えるチャンスをいただきました。参加したときにはこれ以外にもきっと得られるものがあると思います。また、韓国にかけがえのない友人ができるのはもちろん、団員たちとも絆を深めることができます。言語はできるに越したことはありませんが、無理のない範囲で勉強するときと韓国に行ったときに役に立つと思います。最後に積極的に動く姿勢を大切にしてほしいです。積極的に動くことができなかつたり、自分の意思が伝えられないと少なからず後悔をすることもあると思うので、失敗を恐れず自分の意思を信じて動いてみてほしいです。韓国の方は優しいので、失敗をしても丁寧に教えてくださると思います。
- ・家族の元を離れて他国で過ごすことはとても不安があると思いますが、ホームステイの家族は優しく接してくれます。貴重な体験がたくさんできると思うので勇気を持ってたくさん経験してください！
- ・1人で韓国に行くのが不安な方が多いと思いますが、勇気を出してフレンドリーに！頑張ってください！きっととても貴重な体験になると思いますし、素敵な友人に出会えると思います！
- ・まず楽しんでください！あと、もし時間があるならリスニングが一番難しかったので少しでもやっておくと良いと思います！！そして新しい経験ばかりで、何か行動を起こそうと思っても、勇気が出なくて尻込みすることもあるでしょう。そんなときに勇気を持って行動しましょう！一回でも行動できると同じような状況になったときにまた行動できると思います。特に私はホストファミリーとのコミュニケーションをもっととればよかった、と反省しています。特に外から家に帰って夕ご飯までの時間です。自分の勇気がないだけなのに、ホストシスターも疲れているだろうし…  
…、と言いつつ考えて話しかけに行けませんでした。確かにシスターは疲れているかもしれないけれど、ホストマザーやファザーと話せるチャンスだったと思います。一日でも声かけできたら、2日目、3日目と話して、もっともっと親しくなれたことでしょう。同時にこの経験を今後、またホームステイするとき、また受け入れるときに生かそうと考えていますが、これから行くみなさんは貴重な経験をできるだけ有意義なものにするために心に留めておくことをおすすめします。
- ・とても楽しく良い経験になったから行ってほしい。実際に行くことで、韓国の文化や生活を肌で感じることができ、心を動かされます。
- ・韓国語は単語程度は色々と分かっておくと、ホストファミリーに喜ばれるし、やりとりもスムーズだった。お土産は計画的に買うべきだし、スーツケースは半分ぐらい開けておかないと帰るときに困ると感じた。
- ・日本は僕等が思っている以上に狭く、世界は僕等が思っている以上に広い。だから、自分の目で見て、自分の手で実際に体感する。それが1番良い学び方。まさに「百聞は一見にしかず」です。と

にかく実際に体験することが大切です。この事業は、それが簡単にできます。なので、この派遣事業に参加できたことに誇りを持って頑張ってください。

- ・楽しんで！
- ・間違えてもいいし最初は翻訳アプリで見せるだけでもいいから少しずつ声に出して単語でいいから喋ってみよう！
- ・本当に楽しかったです。ぜひ一度応募してみしてほしいです！

18. 来年江東区から青少年交流団が来訪する際（例年8月ごろ）に、ホストファミリーとして受け入れをしたいと思いますか。 ※現時点での希望でかまいません

はい	7
いいえ	0
わからない	5

帰国後の団員の様子を見て、今回の派遣事業への参加をどのように思われますか。

大変よい	12
よい	0
どちらでもない	0
わるい	0
大変わるい	0

評価の理由や、事業に対する感想を教えてください。

■大変よい

- ・自分で見つけて、自分で応募して、新しい扉を開けて、大きく成長する機会になったと思います。報告会の発表にもありましたが、韓国の場合、海外との違いに気付かされるというよりは、あまり変わらないことに気付かされる経験だったのかな、と思います。そういう意味では「ショック」的な目から鱗な経験ではないながら、劇的に何かが変わるということではないと思うのですが、いい意味で世界の近さを感じてくれたように思います。確実に最高の思い出と本人の新しい行動パターンと世界観を作る機会になったと思います。本当にありがとうございました。
- ・緊張しながら出発しましたが、途中送っていただいた集合写真の顔は、自信に満ちていてそれだけで安心いたしました。また帰国後、ホストファミリーの話や、イベントのことなど話が止まらない様子を見て、大変ありがたいことでした。
- ・韓国語が全く話せない状況での参加で不安もありましたが、現地で文化・生活習慣の違いを感じるとともに、ホストファミリーと楽しく交流することができ、江東区役所から温かい歓迎を受けた様子が伺えて嬉しく思いました。
- ・娘にとって、海外渡航やホームステイなど初めての事に挑戦し、皆さまのお力添えで成功体験が得られた事が本当にありがたかったです。コロナ禍や思春期もあって日頃小さい世界に閉じこもりがちでしたが、多様な価値観を肌で感じ、一方で共通の楽しみを分かち合える経験を通して外の世界へ眼を向けられた事は今後、学習の上でも、社会生活の中でも、大きな糧になっていくと思います。母は欧米の渡航や言語学習経験はあるものの、韓国に興味を持つことは従来なかったもので、娘自身の興味にそった体験を多感な時期にさせてあげられた事は、大変嬉しく、貴重な機会を頂いた事に改めて心より感謝申し上げます。
- ・娘はとても興奮して帰国し、とても充実した日々を送ったのだと感じました。ホームステイ先はとても気さくなご家族で、本当によくしていただき、娘の要望を全て叶えてくださいました（キンパ作り、家庭の参鶏湯を食べる、スーパーでの買い物、地元の人が通う市場、本屋に行くこと、漢江でラーメンを食べること）。ホームステイで3日間ご家族と過ごせたこと、ホームステイ先の子も含め、みなさんと一緒に観光できたことで、他の韓国の団員とも親しくなることができたようです。お互いが夏休み中という日程もよかったのだと思いました。事前の研修も大変充実していて、きちんと勉強できましたし、団員の方達とも親しくなれ、より濃密な5日間を過ごすことができました。さよならパーティーは、韓国のご家族がみなさんいらっしやるものとばかり娘は思っていたよう

- で、ホームステイ先のお父様、お母様とあっさり別れてしまったことが本当に残念だったと、後悔しておりました。
- ・初めての海外派遣でしたが、事前の研修から派遣まで大変楽しく有意義な時間を送れて、本人も自信がついたのではと思います。まず、事前研修で韓国の文化や言葉、またマナーや交通等実践的なことについて学ばせていただいたこと、団員や職員の方と一丸になって準備ができたことが、個人旅行では得られない体験で大変素晴らしかったです。ホームステイ先のご家族は大変温かい方たちで、優しく接していただき、たくさん話しかけてもらって、とても楽しかったそうです。一緒に家で餃子を作ったり映画を見たり、リクエストに応じて観光やスーパーに連れて行ってくださいました。いろいろな発見があったようです。このような機会をいただきまして、本当にありがとうございました。
  - ・5日間充実した毎日を過ごせ、メンバーとも仲良く交流できたようです。ホームステイ先のお家にもよくしていただき、旅行では得られない経験ができて良かったと思っています。韓国により興味を持ったとっていました。韓国のお友達ができて、海外でも過ごせると少し自信がもてたようです。武蔵野市役所の方やソウル特別市江東区の方、その他たくさんの方のお世話になり、とても感謝しています。ありがとうございました。
  - ・初対面の子ばかりでしたが、皆と仲良くなることができました。訪問前から韓国語を少し勉強していましたが、現地では、英語よりも韓国語を使う努力をしていたそうです。ロッテワールドでは、アトラクション以上に自分の言葉が伝わった瞬間が楽しいと興奮していました。知らない人たちと交流し、友達をつくるのが好きな娘にとって、他では得られない貴重な体験となりました。団員とは LINE グループを作り帰国後も交流を続けています。ホームステイ先のご家族にはとても温かく迎えていただきました。オリンピックの日韓戦を一緒にテレビ観戦できたというのは平和だからこそと思います。祖父母の家にも連れていっていただき、そちらでもお土産やお小遣いをいただいてしまったそうです。こちらからはお土産はお菓子と文房具を少し用意しただけだったので、申し訳なく思いました。韓国の友達やホームステイ先のご家族と再会できたときには改めてお礼をしたいです。また、帰りのことを考えると大きいサイズのスーツケースを使うべきでした。どんな人と出会ったかでお互いの国のイメージも変わってくるので、これからも個人のつながりを大切にしていきたいと思いました。
  - ・今回の派遣事業で、娘は自信と後悔の二つを持ち帰ってきたようです。言語がうまく伝わらない中でもどうにか一人でプログラムをやり遂げたという自信と、事前準備（韓国語の勉強）をもっとしておけばホストファミリーの皆さんとさらに深くコミュニケーションをとることができたのという後悔です。「百聞は一見にしかず」と言います。初めての韓国で文化の違いを目の当たりにして、実体験で吸収することが少なからずあったようです。私は娘には以下の力を身に付けてほしいと思っています。一つは物事を多面的に見る力、もう一つは考え方は人それぞれなのでそれを認める包容力です。娘は今回の事業で多くのことを学び、それらの力を身につけて戻ってきたように思います。市役所に到着したバスから降りてきた娘の表情はとても満足気で、誇らしげでしたし、帰路では話が止まらないといった様子でした。「楽しかった」だけでなく「もっとこうすれば良かった」の感想があったことが、親としては大変嬉しく思いました。この派遣事業での経験が娘を大きく成長させてくれたと実感しています。このような学びの機会を与えていただきましたこと、関係者の皆様に心から感謝いたします。

- ・娘にとって初めての海外旅行で初めてのホームステイでしたので、市の職員さんが同行して下さり安心感がありました。また、普段は学校内でのコミュニケーションが主でしたが、この事業により他校の異なる学年の方々とお話ができたのがとても楽しかったようで、親としてもうれしかったです。
- ・親元を離れ、家族以外のホームステイ先の方々と過ごした時間は、子どもにとって、とても貴重な体験だったと思います。青少年交流団の一員として事前準備から当日の役割を全うするまでの責任感も生まれ、今後何かに挑戦するための意欲、子の自信に繋がったように感じています。
- ・初海外、初ホームステイの初めてづくしの貴重な体験をさせていただき、無事にそして少し成長した姿で帰国しました。前半は、不安も大きかったようですが後半は環境にもなれて帰国するまで、楽しく過ごせたようです。この様な貴重な機会をいただき、感謝しております。